



Web Fairy

第123号

Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第104回 WFP 作品展(再掲)
- ・ 第105回 WFP 作品展

結果発表

- ・ 第102回 WFP 作品展
- ・ Fairy of the Forest #56
- ・ 安南詰最長手順作品

読み物

- ・ 読者サロン(103回作品展への感想)

(改訂:2018/9/22)



2018/9

はじめに



いろいろ

本来なら本号でカープ3連覇！の話題を考えていたのですが、新井選手の今期限りの引退発表後の連敗などで優勝決定が延びてしまい。今日現在でマジックナンバー4。最短での優勝が21日とWFPの発行日に間に合わなくなっていました。ここ2年はマジックナンバーに合わせて強欲協力の煙話をブログに載せていたのですが、今年はいろいろ忙しくて出来ずにいたせいかもしれません。

話は変わりますが、大きな台風がやってきたり、北海道で大きな地震が発生したりと自然災害が猛威を振るっています。被害等に合わせた皆様には心よりお見舞い申し上げます。私の家内も、今月13日より北海道で開催される全日本マスターズ大会のバドミントンの部で参加予定でしたが、直前に地震災害が発生したということもあり大会自体が中止となりました。なかなか大会の中止が発表されなかった(大きな大会ですのでいろいろ検討する時間がかかったのでしょう)為、飛行機のチケットやホテルのキャンセルなどの対応に追われてました。

数日前の関東地方でのゲリラ豪雨などもこれまでの経験では計れないほどの状況のようにも見受けられます。人間は自然には勝てないということをつくづく思い知らされる今日この頃です。

フェアリー詰将棋を楽しむこと。そんな普通のことか当たり前ではなく幸せなことなんだと思うようになりますね。

台風、地震、大雨・・・いつ来るかは分かりませんが自分の身は自分で守りましょうね。

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第123号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス
*ご協力感謝します

妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

フェアリー時々詰将棋

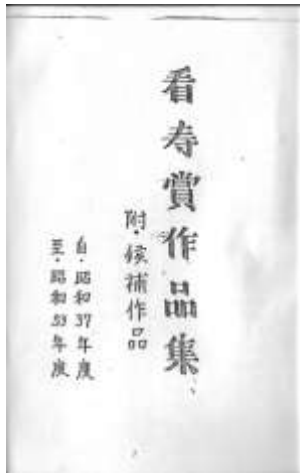
<http://fairypara.blog.fc2.com/>

占魚亭残日録

<http://d.hatena.ne.jp/sengyotei/>

第104回WFP作品展(再掲)及び 第105回WFP作品展

担当：神無七郎



昨年「完全版・看寿賞作品集」が刊行されましたが、それがきっかけで読み直し始めた本があります。それは石沢孝治氏が編集した「看寿賞作品集」のコピー本です。この本には昭和53年度までの看寿賞受賞作が収録されているのですが、受賞作以外に「候補作品」も多数収録されており、資料として高い価値があります。

以前この本を読んだときは、興味を惹かれた作品だけ鑑賞していたので、今度はすべての収録作を順に解きながら改めて鑑賞することにしました。既に知っている作品も多いのですが、作品が生まれた時代の詰将棋界のトレンドを同時に知ることができるので、同じ作品でも単体で見た時とは違って見えます。

このように大変面白い本なのですが、この時代の詰将棋本につきものの「誤植」で悩まされることが何回かありました。有名作なら正図を探すのも容易なのですが、今となっては情報がなかなか手に入らない作品もあります。

そういう場合、手順から正図を推理し、それらしい図面を「詰将棋同一作検索ページ」(<http://www.kukiminsho.com/tdb/searches/index>)に掛けて正図を調べました。このページは目的外使用を防ぐためか、短時間に連続でチェックできないようになっており、正図を探り当てるのに時間が掛かる場合もあります。

せっかくですので、そんな誤植図から正図を推理する作業を皆さんにもやって貰いましょう。言うなれば「推理詰将棋」です。以下の2つの誤植図の正図と詰手順を推理してください。どちらも誤りは駒1枚です。(解答は本稿末尾)

〔第1問〕

田中輝和「けちんぼ」の誤植図
詰将棋 19手

			皇	皇					一
科	銀	香	王	飛			香		二
		飛	科					科	三
銀			科				金		四
香									五
				銀		香			六
									七
									八
				馬	馬				九

持駒 なし
(近代将棋,1971年8月)

これは田中輝和(田中鵬看)氏の「歩なし図式」シリーズの一つ。「けちんぼ」は「けちん坊」の表記もあるようですが、「看寿賞作品集」の表記に従いました。「歩なし図式」なので金が一枚足りないのですが、どこに置くのでしょうか?

〔第2問〕

大村光良作の誤植図
詰将棋 13手

				角		飛	科		一
								王	二
					科	銀			三
						香			四
				角		科			五
						香			六
									七
									八
									九

持駒 桂
(詰将棋パラダイス,1971年11月)

大村光良氏と言えば、煙詰をはじめとした「逆算物」のイメージが強いですが、「看寿賞作品集」にはこんな短編も収録されていました。ただし、この図のままでは「不詰」です。どこが誤っているのでしょうか?

読む人のことを考えると、誤植は可能な限り防がねばならないのですが、なかなかそうはいきません。筆者も注意はしているのですが、本作品展でも誤記・誤植の撲滅はできていません。

本作品展に作品を投稿された作者の皆様は、本誌に載った自作の図面や説明に誤りがないかぜひチェックしてください。そして、問題があれば速やかに連絡していただくと助かります。

さて、今月の WFP 作品展は第 104 回の再掲載分と第 105 回の新規出題分です。

第 105 回の出題は全 9 題（3 題セットの問題があるので実質 11 題）です。難度はいつもより低いと思うのですが、新しいルールや新しいフェアリー駒も登場するので、油断せずに計画的に取り組みましょう。

〔第 104 回作品展各題への補足説明〕（再掲）

第 104 回の出題は 11 題。内訳は神無太郎氏 3 題、占魚亭氏 2 題、はなさかしろう氏 1 題、変寝夢氏 3 題、Pontamon 氏 1 題、根津将棋名人氏 1 題です。

根津将棋名人氏は本作品展初登場で、作品の方も本作品展初登場のルールです。以下のルール説明と補足説明をお読みください。

104-1～104-3 は神無太郎氏の *Imitator* 作品。このところ中立駒作品を集中して発表されていた神無太郎氏ですが、*Imitator* にも芸域を広げてきたようですね。持駒は金銀だけですが、受方には一揃い持駒があるので、*Imitator* の壁として打つ可能性があることをお忘れなく。

104-4 及び **104-5** は占魚亭氏の作品。**104-4** は例によって *Imitator* を使った作品であり、作者が最近よく採用している「受先形式」での出題です。初手が特に重要ですので、詰上りを見据えて着手を選んでください。

104-5 は玉以外の駒がすべて中立駒の作品。神無太郎氏が *Imitator* を使い始めたと思ったら、今度は占魚亭氏が神無太郎流の「オール中立駒」の作品で登場しました。別に示し合わせたわけではないでしょうが、面白い偶然ですね。

104-6 は、はなさかしろう氏の変則推理将棋。通常の推理将棋は全手順を求めるのですが、本局は初形と詰上りの差分と、20 手目以降の手順を求めよという問題設定になっています。これは **103-11** の続編に当たる作品ですが、**103-11** とは異なり、初形から 2 対の駒を入れ替えれば

既に詰んでいる形になっています。そんな形をすべてリストアップするか、正解になりそうな形だけに読みを絞るかは皆さんにお任せします。

104-7～104-9 は変寝夢氏によるリパブリカンとレトロの問題。**104-7** と **104-8** の受方持駒は標準駒の「残り全部」ですので、合駒の選択が重要になります。**104-9** は逆算手数が多いですが、双方持駒なしなので逆算の手段は限られます。詰型を先に想定すれば解き易いでしょう。

104-10 は Pontamon 氏の推理将棋。将棋で合法手が最多の局面は 593 の合法手がありますが、それを素材にした推理将棋です。「593 も合法手がある局面なんて思いつかないよ」という方は、「コンピュータ将棋基礎情報研究所」の「一局目の合法手の最大数が 593 手であることの証明」(<http://lfics81.techblog.jp/archives/2041940.html>) という記事を参考にしてください。

104-11 は本作品展初登場となる根津将棋名人氏で、ルールはこれまた本誌初登場の「根津詰将棋」です。詰将棋パラダイス 8 月号の「ちえのわ雑文集」で『根津将棋』の紹介があったのでご存知の方も多いと思いますが、念のためその一部を抜粋します。

ルールは単純で、飛車が一手の間に縦方向と横方向に一回ずつ走る将棋です。それ以外は普通の将棋と同じです。

詳しく説明すると、根津将棋での飛車のことを「根津飛車」と呼ぶのですが、この根津飛車の動きは以下の条件を満たす必要があります。

- ★根津飛車が動くときは、一手のうちに通常の飛車の動きを必ず 2 回行う。
- ★一回目の移動では縦横に走るのみ可能で、駒を取ることはできない。
- ★一回目に縦に動いたら二回目は横に動かなければならない。逆も同様。二回目は駒取りができる。
- ★根津飛車を打つ時は打つだけで一手とみなす。一手の間に「根津飛車を打って、その飛車を動かす」のは禁止。
- ★成りは、一手の間に敵陣に入る・出る・敵陣内を移動したときに成ることが出来る。成ると普通の竜に戻る。

たとえば 1 図では、55 の根津飛車は以下のよう動くことができます。

(1図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				飛			垂		五
									六
				歩					七
							ス		八
									九

持駒 なし

◎(53 か 35 を経由して)▲33 飛成

◎(35 を経由して)▲38 飛

一方、以下のような動きはダメです。

×▲53 飛成 (2回動いていない)

×25 歩を取って▲28 飛 (一回目の移動で駒取りはできないから)

×▲39 飛 (38 と 57 に駒がいるので、通常の飛車の動きを縦横に一回ずつやっても39に行けないから)

今回の「根津詰将棋」は飛車が「根津飛車」の性能になっている詰将棋です。それ以外は普通の詰将棋と変わりません。

「根津飛車」は、飛車の動きで2度動けるといって古将棋の「鉤行」に似ているのですが、「必ず2回動くこと」や「一回目の移動で駒が取れない」等の制約により、「鉤行」より機能が抑えられています。

果たしてこの駒でいったいどんな作品ができるのか、まずは本局を解いて確かめてみてください。その上で、ルールについての疑問や提案等があれば、ぜひご意見をお寄せください。



〔第105回作品展各題への補足説明〕

第105回の出題は9題(実質11題)。内訳は神無太郎氏2題、変寝夢氏3題、Pontamon氏1題、はなさかしろう氏1題(3題のセット)、占魚亭氏1題、たくぼん氏1題です。

変寝夢氏の All-in-Shogi と、Triton というフェアリー駒は本作品展初登場。また、はなさかしろう氏は推理将棋に中立駒を持ち込むという新しい出題形式での登場です。いつも以上に、ルール説明と補足説明をよく読んで解図に取り組んでください。

105-1 及び 105-2 は神無太郎氏の Imitator 作品。前回同様、攻方持駒は小駒だけなので、丁寧な紛れを潰していけば、きっと解けると思います。

105-3~105-5 は変寝夢氏の作品。

105-3 と 105-4 は「All-in-Shogi」と名付けられたルールを使っています。これは単純に言えば「相手の駒を動かしても良い」というルールです。「相手の駒」には持駒も含まれます。ただ、これをそのまま適用すると(特に対抗系ルールで)詰みにくいので、「直前の局面に戻す着手は不可」という附則が付けられています。今回は両題とも協力系のルールなので、この附則を利用した独特の詰上りが見所です。「All-in-Shogi」については変寝夢氏が WFP122号に紹介記事を書いていますし、WFP1号にも若島氏の作品が紹介されていますので、参考にしてください。

105-5 は Triton (海) という本作品展初登場のフェアリー駒が使われています。この駒は Marine Piece という「駒を取るときと取らないときで異なる挙動をする」駒の一種です。以前、102-14 で使われた Siren (汝) の仲間と思えば良いでしょう。Siren は Queen の方向を基本とした性能を持ちますが、Triton は Rook の方向に基づいた利きを持ちます。つまり、駒を取らずに動くときは Rook と同じ、駒を取るときは Rook-Locust と同じ動きをします。Siren の進行方向を縦横だけに制限したものと思えば良いでしょう。なぜ Triton の漢字表記を「海」にしたかって? それは「海のトリトン」だからに決まっているじゃないですか!(実際は神無太郎氏の案を採用しただけです。)

105-6 は Pontamon 氏の推理将棋。103-1 や 103-2 と同様、棋譜表記が条件に含まれていますが、今回は「右」「左」「上」「引」「寄」「直」「不成」という後ろに付加される語句がないだ

けでなく、「同」の表記すら登場しないという徹底した「特殊表記不使用」が条件です。ただし、「同」がないからといって、駒を取らないわけではないので、そこは誤解のないように。

105-7 ははなさかしろう氏による中立駒を使った変則推理将棋。実戦初形の何枚かを中立駒にして条件に従って詰ませよという問題です。元は「氾濫 49」への投稿でしたが、ルール説明に多大なスペースを要するため、こちらに回して貰うことになりました。

本局では中立駒を使用するに当たって、主に2つ注意事項があります。

一つは、「玉も中立駒」の可能性があることです。もし玉が中立駒の場合、「二玉詰」のルールが適用され、どちらかの玉に対する王手の回避ができない場合は「詰」とみなします。詳しくは以下の通りです（作者の投稿原稿より引用）。

- ・中立玉：両者共に動かすことができ、両者共に詰ますことができ、両者共に王手回避義務がある玉。具体的には、手番の側は以下の手順で取り扱う。
 1. 中立玉を取ることができる状態の場合、その前の相手の着手が王手放置の反則。初形配置だった場合は非合法。
 2. 中立玉が自玉だとして王手をかけられていたら回避しなければならない。このとき、中立玉を自玉として動かしても良い。回避できない状況の場合、他に自玉があったとしても詰みとなり、終局（玉と太子がいる場合とは異なり、対局の継続はできない）。
 3. 中立玉が相手玉だとして王手をかけることができる。中立駒で王手をかける場合は反則手にならないよう利きの向きに要注意。中立玉を自駒の利きに動かしても王手になる。

もう一つ注意しないといけないのは、中立駒を使用した場合でも局面の「合法性」が要求されるということです。設問全体の枠組みを含め、こちらも作者の投稿原稿より引用します。

共通する設問の枠組みは以下の通りです。

- 1) 初形配置に駒を並べる。
- 2) 条件に定める枚数の駒を中立駒にする。但し、局面が非合法になるような中立駒への変更は

不可。局面が非合法になる理由には二歩と王手放置があり、具体的には、全ての歩、41金、61金、59玉は中立駒に変更できない。

- 3) 推理将棋同様に対局をシミュレートし、条件を満たすような中立駒への変更駒と対局の手順（棋譜）を推理する。通常の推理将棋同様、対局過程での王手義務はなく、詰み判定は対局ルールのみによって行う（条件はあくまで詰みまでの手順に対するものであり、詰み判定を束縛しない）。

作者としては(a)(b)が練習問題、(c)が本題という位置づけだそうですが、こんな問題設定の推理将棋を解くのは皆さんも初めてでしょう。中立駒と推理将棋のクロスオーバー、存分に楽しんで（苦しんで？）ください。

105-8 は占魚亭氏の *Imitator* 作品。作稿の都合上、投稿順に作品を並べているので、神無太郎氏の *Imitator* 作品と離れた配置になってしまいました。こちらは大駒が持駒ですが、枚数が1枚だけなので根性で何とかなるでしょう。

105-9 はたくぼん氏お得意の強欲協力詰。手数は一番長いですが、ひょっとすると今回の作品展で一番易しい作かもしれません。



解答要項

第104回分解答締切:2018年10月15日(月)

第105回分解答締切:2018年11月15日(木)

宛先: k7ro.ts@gmail.com (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月15日の投稿まで当月号に掲載します。)

宛先は解答と同じ k7ro.ts@gmail.com へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

ルール説明

※WFPのページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule97.pdf>) があるので、それも参考にしてください。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【Imitator】(■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。このImitatorが駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【受先】

受方から指し始める。

【中立駒】(「」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横にnを付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる(利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の

駒や、中立駒は取れる。

- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行く。

【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【リパブリカン】

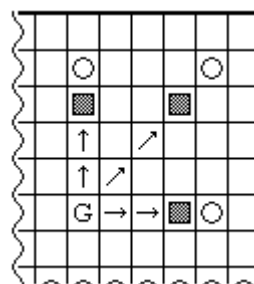
最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。

(補足)

- 1) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 2) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
- 3) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。自玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

【Grasshopper】(G)

フェアリーチェスの駒。Queenの線上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



【レトロ -m+n手】

m手逆算してn手で詰む手順を求める。

(補足)

- 1) 特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2) 協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数の逆算や短い手数の詰手順

が成立する場合、それが優先される。

【根津飛車】

飛車が一手の間に縦方向と横方向に一回ずつ走る。

(補足)

- 1)一回目の移動では縦横に走ることのみ可能で、駒を取ることはできない。
- 2)一回目に縦に動いたら二回目は横に動かなければならない。逆も同様。二回目は駒取りができる。
- 3)根津飛車を打つ時は打つだけで一手とみなす。一手の間に「根津飛車を打って、その飛車を動かす」のは禁止。
- 4)成りは、一手の間に敵陣に入る・出る・敵陣内を移動したときに成ることが出来る。成ると普通の竜に戻る。

【詰将棋】

攻方は受方がどのように応じてても詰むように攻め、受方はなるべく詰まないように応じる。(いわゆる普通の詰将棋)

【All-in-Shogi】

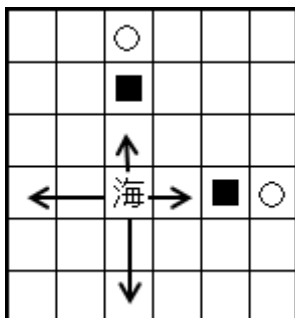
双方とも、自分の手番のときに相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも1手前の局面に戻すような着手は禁手とする。

(WFP1号、WFP122号参照)

【Triton】(海)

フェアリーチェスの Triton (海)。

駒を取らないときは Rook の動き。駒を取るときは Rook-Locust の動き (Rook の利きの方向にある敵駒を跳び越えその1つ先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る)。



(矢印が駒を取らない時の動き。○が駒を取る時の移動先。■は敵駒。これを取って○に行く。■が味方の駒だったり、○の地点が埋まっていたりするとそこには行けない。)

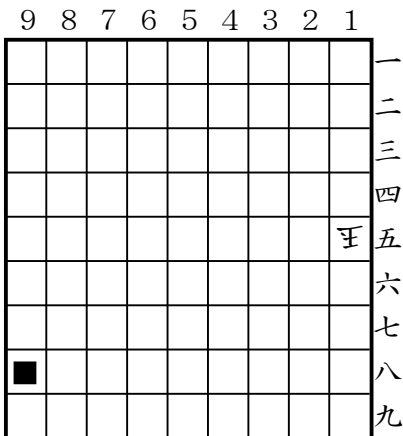
【強欲】

駒を取る手を優先して着手を選ぶ。

<第 104 回>解答締切:2018 年 10 月 15 日(月)

■ 104-1 神無太郎氏作

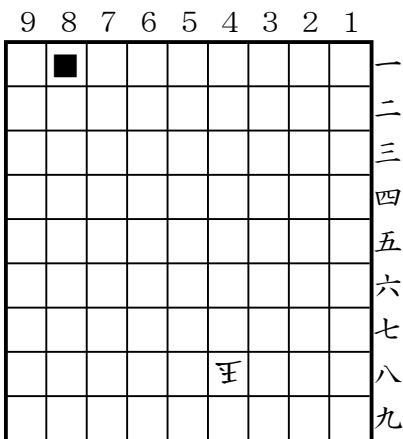
協力詰 7手



持駒 金銀
※■:Imitator

■ 104-2 神無太郎氏作

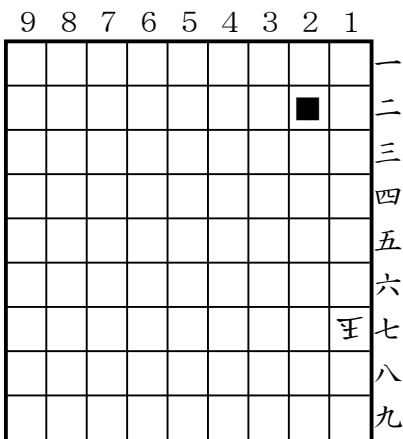
協力詰 7手



持駒 金2
※■:Imitator

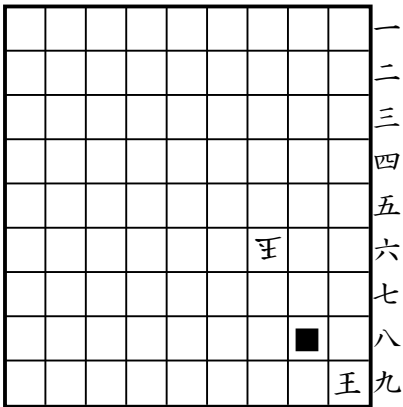
■ 104-3 神無太郎氏作

協力詰 7手



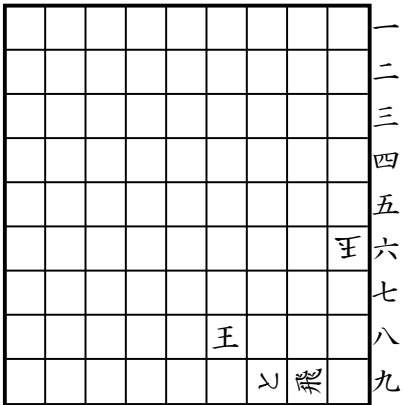
持駒 金2
※■:Imitator

■ 104-4 占魚亭氏作
協力白玉詰 5手 ※受先
9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 桂
※■:Imitator

■ 104-5 占魚亭氏作
協力白玉詰 6手
9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 n角
※双方の玉以外はすべて中立駒



■ 104-6 はなさかしろう氏作

推理将棋

『入れ替え作業のあつけない幕切れ その3』

「さっきの将棋、26手で詰んだんだけど」

「うん」

「詰め上がりで、初形から二対4枚の駒が位置を交換していて、その他の36枚はそれぞれ初形の位置にいたんだ」

「ええと、ちょっと待ってね。二対4枚の駒の位置の交換というのは、A、B、C、Dの4枚について、AがBの初形位置に、BがAの初形位置に配置され、CがDの初形位置に、DがCの初形位置に配置された、ということで良い？」

「そう。A→B→C→D→Aみたいな位置の循環ではなく、1対1の交換が二対だったよ」

「ふむ。それならもう一つ確認だけど、詰め上がりでその他の36枚は、局面として初形配置と同じだった、ということ？」

「局面が同一なだけではないんだ。局面だと同種駒のすり替わりは同一とみなされるけれど、さっきの将棋では、木片としての個々の駒が物理的に元の位置にいたんだよ」

「なるほど、最終的に入れ替わらなかった駒は動いたとしても最初の位置に戻ったんだね。それなら、入れ替わった駒と、20手目から最終26手目までの棋譜はわかったよ」

[条件]

- 1) 26手で詰んだ
- 2) 詰め上がりは初形から二対(AとB、CとD)の駒がそれぞれ位置を交換しただけで、他の36枚は初形と同じ位置にいた

※位置を交換した二対の駒と、20～26手目の棋譜を推理してください。



■ 104-7 変寝夢氏作
リパブリカン協力白玉詰 4手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

							角	王	一
									二
	馬								三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛香

■ 104-8 変寝夢氏作
リパブリカン協力白玉詰 4手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

							王		一
									二
									三
									四
									五
							香		六
									七
									八
									九

持駒 香G

※G:Grasshopper

■ 104-9 変寝夢氏作
レトロ協力詰 -8+1手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
							馬	銀	二
									三
						王		銀	四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

■ 104-10 Pontamon 氏作

推理将棋『593の合法手がある局面 61手』

「先手のP氏が長考していますが、どうしたのでしょうか？」
「この61手目の局面では593種の指し手がありますからね」
「何か動きがあったようです。61手目、11回目の王手で詰みましたね」
「今の対局を振り返ってみましょう。後手は12連続、先手は飛の9連続を含む17回連続で駒を取りました」
「先手の飛の着手は1～8マス移動のうち6マス移動だけが無く、3マス移動以上は1回ずつでしたね」
「銀着手の3手後に銀の着手をするのが3回ありました」
「3回の着手があった地点は無かったですね」

[条件]

- 1) 593種の着手が可能だった61手目に11回目の王手で詰んだ
- 2) 後手は12連続、先手は飛の9連続を含む17回連続で駒を取った
- 3) 先手の飛移動は6マス移動だけが無く、3マス移動以上は1回ずつ
- 4) 銀着手の3手後の銀着手が3回
- 5) 3回着手地点は無い

■ 104-11 根津将棋名人氏作
根津詰将棋 21手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							銀	王	一
							香	飛	二
						王		王	三
								銀	四
									五
									六
									七
									八
馬									九

持駒 歩3

<第 105 回>解答締切:2018 年 11 月 15 日(木)

■ 105-1 神無太郎氏作

協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
								王	八
									九

持駒 金銀
※■:Imitator

■ 105-2 神無太郎氏作

協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
							王		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂歩
※■:Imitator

■ 105-3 変寝夢氏作

All-in-Shogi協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
								歩	二
								馬	三
								皇	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

■ 105-4 変寝夢氏作

All-in-Shogi協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
								香	二
								王	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

■ 105-5 変寝夢氏作

協力自玉詰 24手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし
※海:Triton

■ 105-6 Pontamon 氏作

推理将棋

「13 手目に 44 地点の着手で詰めたよ」
「何かスッキリしている棋譜だね。地点と駒種だけとは珍しい」
「同じ駒の連続着手があったのは玉だけというのも珍しいかな」

[条件]

- 1) 13 手目の 44 地点の着手で詰んだ
 - 2) 棋譜は、地点と駒種だけの表記だった ※1
 - 3) 同じ駒の連続着手があったのは玉だけ ※2
- ※1 棋譜に、同、左、右、成、不成などが付かない
※2 玉以外の駒は連続でなければ複数回の着手可

■ 105-7 はなさかしろう氏作

推理将棋×中立駒

(a)、(b)、(c)それぞれについて、中立駒にした駒と詰みまでの手順を推理してください。

- (a) ・ 初形配置のうち 3 枚を中立駒にした合法局面から 2 手で詰んだ
 - ・ 4 筋への着手はなかった
- (b) ・ 初形配置のうち 3 枚を中立駒にした合法局面から 3 手で詰んだ
 - ・ 不成があった
- (c) ・ 初形配置のうち 3 枚を中立駒にした合法局面から 6 手で詰んだ
 - ・ 棋譜表記に「寄」が 2 回と「上」が 1 回あった

■ 105-8 占魚亭氏作

協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
							王		三
									四
		■							五
									六
									七
									八
									九

持駒 角
※■:Imitator

■ 105-9 たくぼん氏作

強欲協力詰 75手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									と
								歩	香
				歩	歩	歩	歩	香	三
		歩	歩					銀	四
	香	香	香	香	香	香	香	と	五
				飛	ス	角	角	ス	六
	歩			飛	桂	桂		歩	七
		桂	ス	ス		ス	香		八
	香	金		王		全	全	全	九

持駒 なし

[第 1 問の正図]

田中輝和作「けちゃんぼ」

詰将棋 19手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			皇	皇					一
科	銀	香	王	香	香		香		二
		飛	香	科				科	三
銀			科				金		四
香									五
				銀		香			六
									七
									八
				馬	馬				九

持駒 なし
(近代将棋、1971年8月)

72 飛成 同銀 95 馬 84 歩 同馬 同桂
63 金 同玉 74 金 54 玉 55 歩 43 玉
16 馬 25 歩 同馬 同桂 44 歩 同玉
34 金 まで 19 手

☆誤植図は「受方 42 金」欠落でした。

14 手目は 25 角合で変同ですが、角合だと余詰があるので、歩合の希望限定が作意となっています。氏の「歩なし図式」シリーズは不完全作が多く、看寿賞奨励賞を受賞した「奔馬」も 145 手の早詰でした。(作意 147 手の方が余詰。)

[第 2 問の正図]

大村光良作

詰将棋 13手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			角	飛	科				一
								王	二
				香	銀				三
					香				四
				角	科				五
				香					六
									七
									八
									九

持駒 桂
(詰将棋パラダイス、1971年11月)

以上

21 飛成 同玉 32 銀成 同銀 同香成 同玉
44 桂 43 玉 54 銀 44 玉 56 桂 55 玉
33 角成 まで 13 手

☆誤植図は歩の位置が一筋ずれていました。
初手 22 銀成の紛れが強力で、32 で清算する
作意になかなか入れません。そのため筆者は
誤植の存在に気付くのが遅れました。
なお 8 手目 21 玉は駒余らずの変同です。

「第 49 回神無一族の氾濫」投稿作品募集

「第 49 回神無一族の氾濫」への参加を募ります。

今回のお題は「理論上の上限・下限」です。

煙詰は盤上の 36 枚の駒を消すために、最短手数
が 73 手となります。

協力自玉スタイルメイトでよく見られる「連
続ですべての持駒を捨てる」作品は、最短手数
が「持駒数×2」となります。

このように、自然に手数や駒数等の限界値が
決まるような主題を設定し、その限界値を満た
す作品を募集します。

主題の設定は自由ですが、できれば普通詰将
棋で同様の主題を実現した場合とは、限界値が
異なる主題を歓迎します。

例) 盤上最長距離の往復

一つの攻方駒が最長距離 (11 と 99 または 91
と 19) を直接往復する手順は、普通詰将棋だ
と 15 手掛かるが、安南詰だと 3 手で済む。

また、1 題通常の協力詰 (ばか詰) を募集し
ます。今回のお題に該当する作品であれば、優
先して採用します。

作品要件	理論上の上限・下限
募集締切	2018 年 10 月 14 日 (日)
募集作品数	4 + 1 (ばか詰枠)
送り先	神無七郎 (k7ro.ts@gmail.com) 上記宛先へ E-mail でお送りくだ さい。
備考	1 人何作でも投稿可。 採否は 10 月 21 日までに通知しま す。

【追記】

WFP作品展で現在解答募集中の作品に余詰があ
りました。

第104回の104-7~104-9 (変寝夢氏作) 及び、
第105回の105-6 (Pontamon氏作) です。

不詰ではないので解答募集は継続し、作意・余
詰・修正図等は結果稿で報告します。

第103回WFP作品展結果

担当：神無七郎

第103回WFP作品展の結果を報告します。

今回の出題は全12題（実質16題）。解答者数は13名。全題正解者はなし。解答の内訳は以下の通りです。

〔第103回WFP作品展成績〕（敬称略）

○：正解 ◎：余詰解 ×：誤解 -：無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11-1	11-2	11-3	11-4	11-5	sp	計
園城寺怜	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14
はなさかしろう	○	○	-	○	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	12
たくぼん	-	-	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	12
一乗谷酔象	○	○	-	○	-	-	◎	○	○	-	○	○	○	○	○	-	10
井上順一	-	-	-	○	-	-	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	-	9
Pontamon	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	-	8
テイエムガンバ	-	-	○	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	5
占魚亭	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
青木裕一	-	-	-	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	4
縫田光司	-	-	-	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	4
変寝夢	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	3
神在月生	×	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
林石	-	-	-	○	-	-	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

全体的に解答成績は良好。103-6と103-spが難問でしたが、103-6にはたくぼん氏が正解を入れ「実質解答者0」を回避、103-spには園城寺怜氏が唯一の正解を入れました。園城寺怜氏は今回よりペンネームを変更しての登場ですが、解答成績を見ればどなたか見当は付くと思います。

作品の方は103-7と103-11◎に残念ながら余詰発生。機械検討できない作品を完全作にするには、慎重の上にも慎重を重ねた検討が必要です。

■ 103-1 Pontamon 氏作（正解4名）

推理将棋『75角左不成まで12手』

「12手目の75角左不成で詰んだよ」

【条件】

- 1) 12手目の75角左不成で詰み

【ルール】

• 推理将棋

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【解答】

76歩 14歩 44角 13角 53角成 57角生
52馬 同飛 58玉 86角 59歩 75角左生
まで 12手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	王	香	銀	科	皇			一
				飛						二
歩	歩	歩	歩		歩	歩	歩			三
									歩	四
		馬								五
	馬	歩								六
歩	歩		歩		歩	歩	歩	歩		七
				玉			飛			八
香	桂	銀	金	歩	金	銀	桂	香		九

持駒なし

【作者のコメント】

12手詰め作は最終着手の棋譜表記の1条件なのでヒントが少ないように思えるが、実は情

報満載。

「左」が付くことから、右の角は 86 に居ることが確定。84 かもしれないがそれだと「左」の角は 64 か自陣に居ることになるので「不成」にはならない。左の角が「不成」になるためには、57、48、39 のいずれかからの 75 角左不成のはず。

となると、玉はどこ？ 86 の角や 75 角左不成の角 2 枚の利き筋に玉はいない。つまり、75 角左不成は空き王手であることがわかる。

【解説】

推理将棋は会話文で表されることが多いですが、本局はたった一条件。会話でなく独り言になっています。「孤独の 7」という有名な虫食い算がありますが、それに近い印象ですね。

そんな一条件問題を可能にする鍵が棋譜表記の特殊性です。

棋譜の正式の表記方法は知っているようで、知らない人も多いでしょう。以下のページに公式の棋譜表記がまとめられています。

「棋譜の表記方法」

<https://www.shogi.or.jp/faq/kihuhyouki.html>

同じ地点に同種の駒が動けると、「上」「寄」「引」という「駒の動作」で区別する方法と、「左」「右」という「駒の相対位置」で区別する方法があります。

原則は「駒の動作」が優先で、これで区別がつかない時に「駒の相対位置」が使われます。

本局の作意の最終手では「駒の動作」で表記すると、どちらの角が動いても「75 角引」となって区別できません。だから、「75 角左」という「駒の相対位置」を使う必要があるのです。

勘違いしてはいけないのは、「不成」の表記。これは、あくまで「成れるのに成らなかった」という事実の記述だけであり、「どの駒が動いたかの区別に使われない」ということです。決して「元から成れない」駒との区別のために付けられる言葉ではありません。

もし『「不成」が付いているということは、どちらの角も成れる可能性があった』と誤解をしまうと、11 手目の局面で「後手 97 角・57 角」の想定をしてしまうことになり、「不詰」に

なってしまいます。

話が最終手の「左不成」という特殊表記に集中してしまいましたが、それまでの手順もなかなかのものです。途中で入手してしまった歩が邪魔になるため、それを解消する 11 手目 59 歩が面白い手です。

特殊な棋譜表記には豊富な情報があり、条件に使うのは効率的です。

例えば「直」は、金（成金）・銀のみに使う例外的表記なので、

『駒の種類は分からなかったけど、棋譜の○手目に「直」と書いてあったのは確かだよ』

のような条件を付けて、駒種を絞らせることも可能でしょう。

解く立場から考えると、この種の問題を解くには棋譜表記の規則を頭に入れる必要があり、結構面倒なものです。もしかしたら、表記法の誤解で無解や誤解となった解答者もいたかもしれません。

【短評】

一乗谷酔象さん

5 筋の歩を取る筋は通常 44～53 と 97～53 の 2 通りあるが 76 を突く手を強要するのが巧い。貴重な最終手限定 1 条件。

園城寺怜さん

玉方の飛車を使う順は盲点でした。

5 手目の成限定や合駒を消費する 59 歩の限定打が絶妙に感じます。

完成度の高い作品だと思います。

神在月生さん（※誤解）

96 歩、14 歩、97 角、13 角、53 角成、57 角不成、52 馬、同飛、68 飛、97 角、58 玉、75 角左不成まで 12 手

一条件は清々しくて大好き。後手の一手をかせぐ 52 馬捨てがうまい。しかし…、透かし詰なので誤解かな？（他に思いつかない）。

☆フェアリーでも推理将棋でも透かし詰は「詰」とみなされませんので、これは誤解ですね。

「97 角・57 角」の形を想定したため、玉の

逃げ道を塞ぐ 68 飛が必要になり、歩を消費するタイミングを逸してしまいました。

はなさかしろうさん

12 手で 1 手明示のみで確定する手順があるんですね。他にもあるのでしょうか。66 はまずそうですが、84 はいけるのでしょうか。75 角左不成、なるほどの不器用手。手数的に 5 筋の空き王手しかないですが、手順の要となる 52 馬の献身がなかなか見えず、解けて爽やかでした。

■ 103-2 Pontamon 氏作 (正解 5 名)

推理将棋『角左不成までの 11 手』

「11 手目の角左不成の手で詰んだよ」
 「4 手目は銀だったね」
 「不成の手は 2 回連続だったよ」

[条件]

- 1) 11 手目の角左不成で詰んだ
- 2) 4 手目は銀
- 3) 不成の手は 2 回連続 (※注) だった (3 回連続はNG)

※注

同じ手番側が連続で不成の着手をしたという意味であり、相手の不成に不成で応じたわけではない。

【解答】

76 歩 34 歩 22 角生 72 銀 55 角生 94 歩
 93 角 62 王 73 角生 71 王 82 角左生
 まで 11 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	王	香		香	馬	科	皇		一
	角	馬								二
	歩	角	歩	歩	歩		歩	歩		三
歩							歩			四
										五
		歩								六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩		七
								飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香		九

持駒 飛 歩

【作者のコメント】

11 手詰め作の方は最終手の着手地点を明かしていないので 3 条件あるけど難しいはず。サービスで「82 角左不成まで」としても良かったのですが...

でも、12 手詰め作と同時出題した作者の意図を裏読みしていただければ、「左」が付いているけど玉はこの角筋に居るといいう狙いに気付いていただけるかも。つまり、最終手が駒取りであれば、玉がどちらかの角筋に居る状態からの詰みがあるというケースです。

42 角打までの 11 手は遊び手がなくギリギリだったので、73 角-71 玉の方の形を検討してみると、飛が居なければ 82 角打ちまでの 11 手

- ▲76 歩、△34 歩、▲22 角不成、△52 飛、
- ▲55 角不成、△62 玉、▲何か、△72 銀、
- ▲73 角不成、△71 玉、▲82 角打 など

の手順があるので、93 から 82 角左不成で飛を取って仕留める形が思い浮かぶはず。(後手は飛を振る代わりに 94 歩、先手は 1 手の余裕手で 93 角と打つ。あとは条件を満たすように手順前後を組み替えるだけ)

ちなみに、11 手では、角左不成での詰みはもう一か所、44 角左不成までの空き王手 (54 香で) の手順がありますが、この手順には銀の着手が無いので最終手の 82 地点情報は不要になっています。

【解説】

前局と同様「左不成」の特殊表記が鍵となる問題。ただし今度は位置が明示されていません。さすがに一条件での手順の限定は難しかったらしく、2つの条件が追加されています。

作者のコメントによると条件 2)がない場合「44 角左不成」までの解があるそうですが、これは

76 歩 34 歩 22 角生 54 歩 11 角生 55 歩
 53 角 42 飛 54 香 52 玉 44 角左生 まで

のような手順のことだと思います。前局と同じ開き王手の詰上りなので、作者もこの手順で出題する気にならなかったのでしょうか。

また、条件 3)は、3回連続不成を禁止することで、角の活用ルートや端歩のタイミングを限定するのが狙いです。

本局は開き王手ではなく、直接王手での詰上りとなります。手順自体は前局より地味なので、82 地点の着手以外で詰める紛れに嵌まるかどうかで、評価が変わる作品だと思います。

【短評】

一乗谷酔象さん

「不成の手は2回連続」が注釈付きでちょっと残念。条件 3)の表現を、2回連続を明示せずに「先手は不成の手を3回連続で指すことはなかった」とすればどうでしょうか。

☆一乗谷酔象氏から条件 3)の改良案が提示されました。作者の見解はいかがでしょうか？短評から推測すると神在月生氏や、はなさかしろう氏も条件 3)の役割を理解しつつ、物足りなさを感じているように思います。

園城寺怜さん

自然に考えたら解けました。

神在月生さん

4手目銀から左边上段での詰形を推測。3回連続 NG で 22~66~93 角転回の複数解を除外。

はなさかしろうさん

ギブアップ寸前。82 が盲点でした。銀条件は 76 歩、34 歩、22 角生、42 飛、11 角生、54 歩、53 角、55 歩、54 香、52 玉、44 角左不成までの順も回避してうまいのですが、66 角生~93 角生のルートが回避しきれないのですね。



■ 103-3 たくぼん氏作 (正解 3 名)

協力自玉詰 70手

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

攻方持駒 飛
受方持駒 角

【ルール】

• 協力自玉詰

先後協力して最短手数で攻方玉を詰める。

【解答】

49 飛 39 角 同飛 28 玉 19 角 同歩成
29 飛 38 玉 28 飛 49 玉 29 飛 39 角
同飛 48 玉 49 飛 38 玉 48 飛 29 玉
28 飛 39 玉 29 飛 同と 17 角 28 飛
同角 48 玉 39 角 同と 18 飛 28 角
同飛 38 と 39 角 59 玉 48 角 同と
29 飛 39 角 同飛 68 玉 59 角 同と
38 飛 48 角 同飛 58 と 59 角 79 玉
68 角 同と 49 飛 69 角 同飛 同玉
47 角 58 飛 同角 78 玉 69 角 同玉
99 飛 89 角 同飛 78 玉 88 飛 79 玉
78 飛 同と 88 角 同と まで 70 手
(詰上り)

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

攻方持駒 なし
受方持駒 飛 角 桂 4

【作者のコメント】

100回の予備作で、18歩を合駒で出して100手の作品を目指しましたが、余詰で泣きました。
70手に妥協ですので考えやすいかと。

【解説】

目標は明確なのにその達成が難しい難解作。
この形では歩を取っても二歩になりますし、桂合も発生させることはできません。従って、18歩を成らせて「と金」にし、飛角を使って自玉の方に運んでいくしかありません。
しかし「と金」の運び方には規則性のある部分とない部分が混在し、一筋縄ではいきません。
規則的な部分は29手目と43手目を比較すれば分かりやすいと思います。

29手目

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 角桂

43手目

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 角桂3

飛の王手で角合を稼ぎ、角を捨てて「と金」

を移動させる手順で14手サイクルの「と金鋸」が出現しています。

もし盤がもっと横長なら、この「と金鋸」の繰り返しを楽しめるわけですが、盤が狭いため繰り返しは途中で途切れ、収束に入ります。

本局を難解にしているのは不規則部分での「と金」の寄せ方の多様さです。寄せ方の基本は角を捨てることですが、「19と→29と」の移動と「68と→78と」の移動は飛を捨てて行います。特に前者は角を捨てて「19と→18と」と移動させる紛れに惹かれやすく、ここで手数をロスした解答者も多かったのではないのでしょうか？

本局は第100回WFP作品展向けに、手数100手を目指した作だったそうですが、70手の本図でも解き応えは充分です。ルールの難しさではなく、手順の難しさを堪能したい方には大満足の一局だったと思います。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

繰り返し手順のようでそうじゃない。
詰め上がりが美しい。

園城寺怜さん（※無解）

70手まで縮めきれませんでした。
収束は△68玉△69との状態から

67角 58飛合 同角 78玉 69角 同玉
99飛 89角合同飛 78玉 88飛 79玉
78飛 同と 88角 同と

だと思のですが…

長編協力詰の解図は初めてだったので、解ききれず無念です。

☆収束部分は解けていますね。おそらく序盤の方で最短手順を外れているのでしょう。

占魚亭さん

飛打角合、角打飛合で玉&と金を自玉に近づけさせるのは予想通りですが、入り組んだ手順で何度も躓きました。

テイエムガンバさん

最初18歩の存在理由を余詰解消のためと考えていましたが、まさか88まで動くとは。

■ 103-4 占魚亭氏作（正解 12 名）

協力詰 3手

			將	王	將					一
										二
				と						三
										四
							馬	■		五
										六
										七
										八
										九

持駒 銀
※■:Imitator

【ルール】

•協力詰

先後協力して最短手数で受方玉を詰める。

•Imitator（■またはI）

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【解答】

42 銀 62 銀[16] 52 と[15] まで 3手

（詰上り）

				王	將					一
			將	と	銀					二
										三
										四
							馬	■		五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

【作者のコメント】

「氾濫」用に作ったものの投稿しなかった作

品（その 1）。

5 二馬が入れば投稿したのですが……。

【解説】

この図を見て 52 馬と指したくなった貴方、きっと貴方は正常です。でも残念。52 馬の横には奇妙な影が付いて来ます。その影は 41 へ進めないで、馬も 51 に進むことができません。そう、52 馬は王手になっていないのです。

作者がコメントしている通り、本局と次局は有名な古典作品のオマージュです。馬（または角）を初手に捨てるその古典詰将棋と異なり、本局の 25 馬は終始不動です。

しかし、本局の 25 馬には「影の主演」としての役割があります。この馬を Imitator の壁駒として利用することで、2 手目 62 銀の受けを可能とし、最終手の両王手に繋げるのです。

2 手目と 3 手目で Imitator が上下して結局元の位置に戻っているのですが、その間、王手を掛ける駒は 1 枚から 2 枚に増えています。これは Imitator を使った両王手でよく出てくるパターンなので、この呼吸を身につけてください。

単なる壁役なら 25 は別の駒でも良さそうですが、「52 と」に同玉とされないよう 25 の駒は馬か角でないといけません。どちらを選択するかは作者の好みですが、馬にしたのは紛れを重視する作風の反映だと思います。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

4 2 銀、同銀[16]、5 2 と[15]まで 3 手、と思ったら imitator の上に駒を打つ手がありました。直接の王手を避けずに imitator を使って王手回避すれば、再度 imitator を動かしたときに両王手になりやすいんですね。

一乗谷酔象さん

馬は不動で中央突破。1 を馬の右に戻すと金で決める。

園城寺怜さん

両王手の詰め上がりを目指したらあっさり解けました。

縫田光司さん

Imitator は苦手ですが 3 手なのでなんとか解

けました。

井上順一さん

3手だが結構苦労させられた。
これ以上の手数は無理。

林石さん

脊髄反射で 52 馬、これは王手ではありません。
2 手目 62 銀が両王手への手助けですね。

たくぼんさん

Imitator の古典となりうる作品でしょう。

神在月生さん

わかってみればなんだあだが、それでも Im は難しいよ～。

Pontamon さん

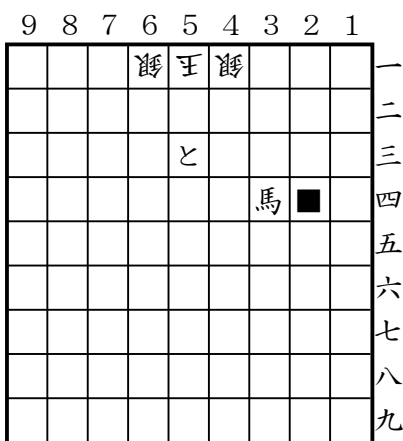
初手 ▲52 とを指したくなる。

はなさかしろうさん

これで受けはないように思われるのですが、
解けた感じがしないのが悩ましいです。

■ 103-5 占魚亭氏作（正解 4 名）

協力詰 5 手

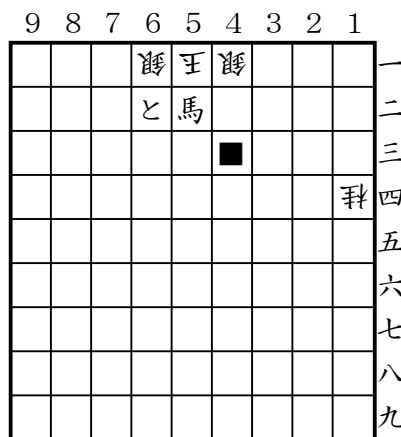


持駒 なし
※ ■: Imitator

【解答】

62 と [I33] 22 桂 25 馬 [I24] 14 桂 [I16]
52 馬 [I43] まで 5 手

(詰上り)



持駒 なし

【作者のコメント】

「汎濫」用に作ったものの投稿しなかった作品（その 2）。5 手でなら 5 二馬を入れられるので作りましたが、捨駒にできなかったのが「汎濫」への投稿はやめました。打った壁駒の移動が入ったのも原因のひとつです。

【解説】

こちらの図は馬が近づいた代わりに、持駒に銀がありません。馬が近づいたメリットがあまり感じられず、本当に詰むのか不安になります。

前局の経験を踏まえれば、と金と馬の両王手にヤマを張ることができそうですが、初手「42 と」と「62 と」の二択には悩まされるでしょう。

正解は「62 と」なのですが、これは 2 手目 22 桂の応手を見据えていないと指せません。これは Imitator を馬の背後に回し、最後の 52 馬を決め手にするのが狙いです。3 手目 25 馬というソッポに行く手との組み合わせによって、「62 と・51 玉」の位置関係を保持したまま Imitator の居る段を上げるのは実に巧妙です。

例えば「34 馬 24 ■」の配置を「25 馬 35 ■」に変えると、2 手目 22 桂の代わりに 33 角に手順が変わります。「62 と・51 玉」の位置関係を保持したまま馬の背後に Imitator を持つてくるという目的は同じですが、本局のように桂を使った方が手順の妙味は上だと思います。

桂の動きは角筋からずれるので、角同士との組み合わせより、角桂の組み合わせの方が手順に面白味が出るが多いように感じます。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

2 2 桂～1 4 桂で6 2 との状態を継続させるのがポイントか。
通常王手を放置する手に気がつかないといけませんね。

一乗谷酔象さん (※無解)

初手3 扱だが、2 手目の応手がわからず。

園城寺怜さん

2 手目が 22 桂合に限定されているのが面白いですね。

たくぼんさん

5 手になると紛れが膨大な感じがする。
22 桂は何となく思いつくがその後の 25 馬～14 桂がなかなか浮かばない。

テイエムガンバさん (※103-4 と 103-5 への評)

馬の位置が違うだけだからツインとして考えればいいじゃないか、と考えたのは私だけでしょうか？

☆本来「ツイン」と呼ばれるには、「手数が同じ」とか「違いが一つ」とか、いろいろ条件があるらしいです。今回の2 作の場合、手順の対比に意味はありませんし、あまり形式張らずに、「他人の空似」として両方楽しんだ方が良いでしょう。

■ 103-6 占魚亭氏作 (正解 2 名) ※実質 1 名

協力詰 4 手 ※受先

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				角					一
						王			二
				龍					三
							金		四
									五
								■	六
									七
									八
									九

持駒 角
※■:Imitator

【ルール】

•受先

受方から指し始める。

【解答】

93 龍[I76] 66 角 13 玉[I67] 23 角成[I49]
まで 4 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
							馬	王	二
								金	三
									四
									五
				角					六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

大駒を大移動させたい方のために作りました。

【解説】

受先形式は初手が命。まして、盤上に大駒があるなら、大駒と影の大移動を期待してしまいます。前回の出題 (102-3、102-4) では、散々大移動を匂わしておいて、結局作意に大移動は登場せず、欲求不満が溜まっていたことでしょう。そんな皆さん、お待たせしました。遂に大駒と Imitator の大移動の登場です。しかし、勢いに任せて初手 93 龍[I76]としたとしても、その意味が分からず、解くのを諦めた方が多かったと思います。この大移動の目的は3 手目 13 玉を可能にすることです。14 には金が待ち構えているので、13 玉が実現すれば、41 角との両王手で詰ますことができます。

初手の大移動はこの目的を達成するための下準備です。これと 66 角の限定打を組み合わせることにより、66 角を Imitator の壁にして、本来なら行けないはずの 13 に玉が進むことを可能にするのです。

限定移動と限定打、両方見えないと正解に辿

りつけない本局。単一の妙手だと詰棋人はあまり苦しませんが、複数の妙手が組み合わさって初めて意味を持つ妙手の発見は、熟練者にとっても容易ではないでしょう。複合妙手の高級手筋でした。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

初手 7 3 龍と作意の違いがわからなかったが、6 6 角と連動していることに気がついて納得。

たくぼんさん

両王手を目指すのが、初手と 66 角の限定打の組合せで 13 玉を実現する順に思いつくまでが大変でした。

☆作者以外の唯一の正解者はたくぼん氏。

今回の3作はすべて両王手が主題でしたが、後に行くほど難しくなり、トリを飾る本局は白旗続出でした。そんな難問にも挫けず、構想を看破したのはお見事です。

■ 103-7 青木裕一氏作（正解6名）※余詰

左無限盤最善詰3手

											飛	一
	龍											二
												三
					角		角					四
												五
												六
												七
												八
												九

持駒 桂▲

※透明駒:攻方0枚 受方1枚

▲:覆面(m,0)-rider(m≥2)

【ルール】

•最善詰

攻方は受方がなるべく早く詰むよう王手を掛け、受方はなるべく詰まないよう応じる。
(補足)

- いわゆる普通の詰将棋から枝葉（無駄合概念や、駒が余るかどうかで手順に優劣を付

ける規則）を取り除き、攻方最短を義務化したもの。攻方最短・受方最長のみが正解で、長手数之余詰は不問。

•左無限盤

拡大盤の一種。左方向に無限に広がった盤を使う。(補足)

•(m,0)-rider

左右に m マスずつ跳ねて進む駒。
(※本局ではmは2以上の整数)

•覆面駒

種類が不明の駒。
着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。駒種が確定すると通常の駒に戻る。

(補足)

- 透明駒と異なり所属・位置は判明している。
- 手順表記上「成」は指定できるが、「生」は指定できない。つまり、移動についての情報と、駒が裏返ったという情報は与えることができる。
- 初形が合法局面であることが仮定される。つまり、駒の枚数が正しいこと、行き所のない駒や二歩がないこと、(受先形式でない場合)受方玉に王手が掛かっていないことを推論に含められる。また、特に指定のない限り標準駒数であることも推論に利用できるが、ルールから明らかでない限り双玉・単玉両方の可能性がある。
- フェアリー駒を使う作品の場合、特に注釈がなければ通常の駒以外に、初形に存在するフェアリー駒にもなれる。

•透明駒

位置・種類が不明の駒。
着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→詳しいルール説明は WFP83 号「透明駒の紹介」を参照のこと。

【解答】

43 桂 一 X 91▲ まで 3 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲			X		X		X	龍		一
	龍									二
					桂					三
					馬		馬			四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

※Xは玉が存在する可能性のある場所

【作者のコメント】

3手目は2筋、4筋、6筋との距離がすべて素数の筋への限定打です。つまり3つ子素数で、これに当てはまる筋は9筋しかありません。

なぜなら、3つの筋との距離の内の1つが3の倍数になるため、唯一の3の倍数の素数である3を含む3、5、7の組み合わせのみが、3つ子素数になるからです。

元となったのは、去年の数学をテーマとした縫田作品群です。ただし、数学部分の難易度は本作の方が易しいです。

【解説】

「間隔が2の三つの数 $p, p+2, p+4$ がすべて素数となる組み合わせは3,5,7しかない」——これはよく知られた事実です。証明も容易なため、入試でも出題されたことがあるそうです。

本局はその事実を利用して覆面駒の限定打を実現した作品です。

初手43桂が王手になることから、初形での透明玉の位置が31か51に決まります。すると、2手目の位置は21玉・41玉・61玉の3つ。たとえどの位置に逃げられても、91に(m,0)-riderを打てば、玉と(m,0)-riderの距離が素数になり、合駒は無効。従って玉の位置も▲の正体も不明ながら、これで詰みとなります。

有力な紛れとしては初手23桂や(10,3)桂があります。これで玉は透明性を失い、普通の玉になるからです。しかし、23桂には41玉、(10,3)桂には(12,1)玉と応じられ、(m,0)-riderでは捕まえることができません。透明性を失って、はっきり見える方が詰めにくいというのは奇妙で

すが、これは応用の利きそうな手筋ですね。

玉と(m,0)-riderの距離を素数にして合駒を防ぐ手筋は縫田氏の作品(92-14)で登場したものです。本局はそれを「三つ子素数」と結びつけ、スマートに表現した作品です。左に無限に広がった盤を使用しているのに、実際の手順は9×9の盤に収まってしまうというのも皮肉が効いています。解答者からも好評で、数学と詰将棋を結びつけた好作の誕生かと思ったのですが、残念ながら余詰がありました。指摘は一乗谷酔象氏です。

《余詰》

(11,3)桂 — X (13,1)▲ まで3手

(11,3)桂 — X (14,1)▲ まで3手

最初の手順は3手目(13,1)▲で▲=(2,0)-riderであることと、透明玉の位置が(11,1)であることを同時に確定する手順です。2つ目の手順は同様に▲=(3,0)-riderであることと、透明玉の位置が(11,1)であることを同時に確定するのですが、 $m \geq 2$ という条件を使って、玉が(13,1)にいる可能性を排除しています。

更に、作者が改めて検討したところ、以下の余詰筋が成立することも分かりました。

(12,3)桂 — X (13,1)▲ まで3手

($m \geq 2$ なので、(10,1)玉・▲=(3,0)-riderが確定する)

(12,3)桂 — X (15,1)▲ まで3手

((12,1)玉・▲=(3,0)-riderか、(10,1)玉・▲=(5,0)-riderのどちらか)

作者からは以下の修正図が示されています(むしろ当初はこの配置だったそうです)。

[修正図]

左無限盤最善詰3手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				歩	歩	歩	歩	歩	歩	一
	龍									二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 桂▲

※透明駒:攻方0枚 受方1枚

▲:覆面(m,0)-rider($m \geq 2$)

作意は発表図から右上に一つずれます(34桂-X 82▲まで3手)。

【短評】

一乗谷酔象さん(※余詰解)

23桂 - 41▲まで3手。

41に打てば21玉が確定。

▲ : (2,0)-rider, 玉=21

先に▲を打って桂で仕留めたいところだが初手▲はすべて同飛と取られる仕組み。

以下の別解(余詰)がありそうです。

[10-3]桂 - [12-1]▲まで3手。

▲ : (2,0)-rider, 玉=[10-1]

[10-3]桂 - [13-1]▲まで3手。

▲ : (3,0)-rider, 玉=[10-1]

[11-3]桂 - [13-1]▲まで3手。

▲ : (2,0)-rider, 玉=[11-1]

[11-3]桂 - [14-1]▲まで3手。

▲ : (3,0)-rider, 玉=[11-1]

☆一乗谷酔象氏は余詰指摘のお手柄。ただし、解説で述べた通り解答手順と最初2つの別解は成立しません。

園城寺怜さん

「3つの数の組(n, n+2, n+4)がいずれも素数となるnは何か」、大学受験の記憶がよみがえりました。3つの数の中に3の倍数が含まれるのは明らかなので、これを用いて考察すればn=3が導かれる、と。表現もスッキリしていて気持ちのよい作品でした。

縫田光司さん

「三つ子素数は(3,5,7)に限られる」ということですね。

左無限盤だけれども作意手順は結局9×9の中、というのもちよっと面白く感じました。

井上順一さん

2手目として可能なのは61玉、41玉、21玉の3通りである。

3手目が王手になることからmは3、5、7のいずれかであるが、いずれも素数なので合駒

(中合)で防ぐことはできず、また玉が動くこともできないのでこれで詰み。

無限盤ではあるが、9より大きい筋Nから覆面駒で王手した場合には、N-2、N-4、N-6のうち3の倍数になるもの(ひとつだけ存在)を選び、それがN-2であれば51、N-4なら71、N-6なら91に合駒することにより、覆面駒が(3,0)Leaperで透明玉が21、41、61にすることを主張できるので3手では詰まない。よって解はひとつしかない。

林石さん(※誤解)

解答手順: 43桂 --X(=玉) 81▲ 迄3手詰。

透明駒はほぼ解いたことがなく自信が...

初手で玉の位置の候補が挙がり、3手目で水切りのように一網打尽にするイメージでしょうか。

☆林石氏の解答は多分「91▲」の誤記だと思うのですが、三つ子素数に関するコメントがないので確信が持てず、誤解として扱いました。ご了承ください。

たくぼんさん(※無解)

まあ無理ですね(笑)。

テイエムガンバさん(※無解)

43桂 41玉 まではわかったのですが、▲のmの証明ができず降参です。

はなさかしろうさん

「数学への憧れだけは無限大」の私にとって、すっきりとシンプルでバランス良く、楽しいです。本問はとりわけ、回答が合っていると良いなあと思います。

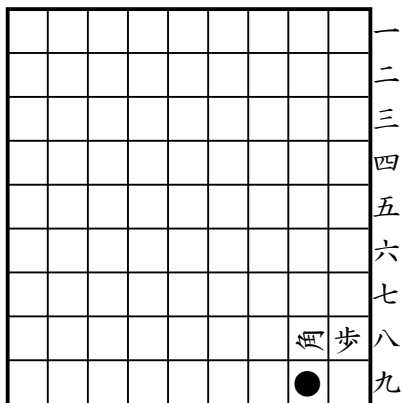
※想定しているロジック:

43桂が王手なので覆面玉は初形で31か51にすることになり、後手は覆面玉を21か41か61に動かす(-X)しか受けがない。次に、3手目の91▲が王手なので、覆面玉が21の場合m=7、41の場合m=5、61の場合m=3。mがいずれも素数なので合駒できず、詰み。p、p+2、p+4がいずれも素数になるのはp=3の場合のみなので他に解はなさそうですが...

■ 103-8 変寝夢氏作 (正解 9 名)

リパブリカン協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※28角は中立駒

●:石 (着手不可、不透過)

【ルール】

•リパブリカン

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。

(補足)

- 1) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 2) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
- 3) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。自玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

•中立駒 (「」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる (利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる

- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

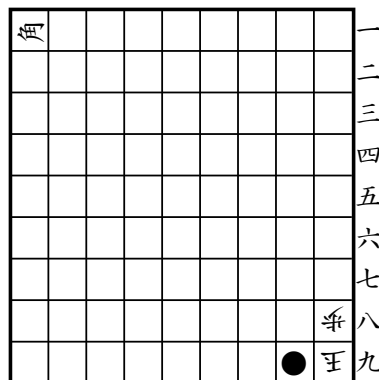
【解答】

17歩 同 n 角生 28n 角 18歩

91n 角生(+19玉) まで 5手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 なし

受方持駒 なし

【作者のコメント】

18歩をひっくり返してみました。

【解説】

中立駒とリパブリカン。新しい組み合わせですが、実際に取り組めばそれほど難しく感じなかったと思います。

本局の最終手は、前回 **102-8** でも登場した隅角による詰上り。「中立角を見たら隅角を狙え」という格言ができそうですね。29●や 18歩の配置が 19玉の出現を示唆しているので、更に隅角の詰上りが予想しやすくなっています。

102-8 での隅角の使い方は「遠打+開き王手」でしたが、本局の隅角は「遠打」でも「開き王

手」でもありません。単に角筋に沿って「移動」ただけです。通常の詰将棋では攻方王手義務があるので、単なる移動では、生角による盤隅からの王手はできません。リパブリカン玉の方から攻方の利きに飛び込んでくれるので、遠打や開き王手を使わなくても、盤の対角線に沿って移動するだけで盤隅の生角による王手ができるのです。先程から生角を連呼していますが、成ると最終手に対し 92 や 81 に移動できてしまうので詰みになりません。それに備えて、2 手目の中立角の着手も「生」になります。

ただ、作者の主張は隅角より、18 歩が反転する趣向にあります。単玉のリパブリカンでは、玉は最後しか盤上に居ないので、当然攻方王手義務はありません。その間の自由な着手を使って、攻方は歩を受方に渡し、受方も貰った歩で 18 に蓋をし、玉が 19 地点から出られなくします。中立角はその間、歩の受け渡しの仲介役を務めます。フェアリーらしいユーモラスなやり取りに、思わずくすりと笑ってしまいますね。

【短評】

一乗谷酔象さん

歩の活用に悩むが、合効かずの最遠 n 角の筋で解決。

園城寺怜さん

詰め上がりが見えたので秒殺できました。

縫田光司さん

最遠生中立角での詰上りは前回で予習済みですが、18 歩の先後反転の趣向が加わっていて面白いと思いました。

井上順一さん

隅の n 角による詰上りは予想通り。

たくぼんさん

18 歩の向きが変わる手順に思わずにやり。

青木裕一さん

18 の歩をひっくり返す。狙いが分かりやすく良い。

はなさかしろうさん

奇しくもおさらいに。

■ 103-9 変寝夢氏作 (正解 9 名)

レトロ協力詰 -4+1 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							煙	王	一
							劍	歩	二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし
※31角、32金は中立駒

【ルール】

•レトロ -m+n 手

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。

(補足)

- 1) 特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2) 協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数 of 逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先される。

【解答】

22n 角 22n 角持 21n 金 31n 金 /

99n 角 まで -4+1 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							劍	王	一
								歩	二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
煙									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

(逆算図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							▲	王	一
								金	二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 n角
受方持駒 なし

(出題図への手順)

21n 金 32n 金 22n 角 31n 角 まで 4 手
(詰手順) 99n 角 まで 1 手

【作者のコメント】

初手と 3 手目の手順前後は成立しません。

【解説】

今度は中立駒+レトロ。前局で学習した「隅角」が、今度こそ「遠打」で登場します。

作者は前回 102-12 で中立駒のレトロを見せてくれました。この時の中立駒は1枚だったのですが、今度は2枚の中立駒が絡んでいるので注意が必要です。遠打をするためには、盤上の角を持駒にしなければいけません、その順番が問題。先に金を戻そうとすると角が邪魔になります。角を持駒に戻した後、金を移動する意味は最終手に対する合駒防止です。そのまま 32 に置いておくと 99n 角に対して 33n 金の合駒が可能なので詰んでいません。31n 金の形でも 22n 金の合駒が可能ないように見えますが、これは自玉への王手の反則です。

隅角という中立駒の基本手筋に、金の位置変更で味付けをした作品でした。

【短評】

一乗谷酔象さん

角金の繰替え。12 歩は触らない。

園城寺怜さん

こちらも秒殺。

縫田光司さん

中立金の位置変換は何となく指してから意味付けに気が付きました。

22n 金だと受けにならないんですね。

☆「位置変換」という言葉は自分でも使ったことがあるのですが、「駒本来の利きで行ける場所への移動」と「駒本来の利きでは行けない場所への移動」は区別した方が良くもいれません。前者を「位置変更」、後者を「位置変換」と呼ぶのが一案です。

井上順一さん

これも隅からの n 角の限定打。

たくぼんさん

これは詰上りが見えるので方針が立てやすい。

テイエムガンバさん (※103-8 と 103-9 への評)

盤隅への中立角は手筋。

はなさかしろうさん

別の表現方法。

■ 103-10 変寝夢氏作 (正解 5 名)

ボカスカ協力自玉詰 4 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
									二
									三
			王						四
							金		五
			金						六
									七
						龍			八
								龍	九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※25角、66角は中立駒

【ルール】

• ボカスカ

盤上にある同じ所属の同じ種類の駒は、すべて同時に同一方向に動かす。

(補足)

- 1)成駒と生駒は別種とみなす
- 2)動かさない駒があれば動かせるだけ動かす。
- 3)成・不成は1枚毎に自由。持駒も同じ種類の駒はすべて同時に打つ。
- 4)歩だけは例外で打つのも動くのも単独。

【解答】

(14 龍,33 龍) (同 n 角,同 n 角)
(23n 角成,42n 角成) (31 飛,53 飛) まで 4 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							飛	王	一
							王		二
				飛			王		三
			王						四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

【作者のコメント】

中立駒+ボカスカです。
最終手が一番考えにくいかもしれません。

【解説】

今回の中立駒+αのシリーズ、最後に登場するのは「ボカスカ」ルールです。

ボカスカと中立駒を組み合わせるとき、「複数の中立駒の走り駒が同じ筋を動くときどうなるか」を決めないといけないのですが、本局は2枚の中立角が筋違いに置いてあり、手数も短いので、その問題は棚上げできます。

本局で考えるのは初手。角か龍か。

自玉を詰ませることを考えると、中立駒より通常駒の方が詰めやすいので、通常駒である龍を受方に渡す方針が立てられます。すると初手は(14 龍,33 龍)と(15 龍,34 龍)の選択が残ります。

正解は、2つの龍を同時に受方に渡すことのできる(14 龍,33 龍)です。

持駒に同種の駒が複数あるとき、ボカスカではそれを同時に打つことができます。次の王手で1枚は合駒として使うしかありませんが、もう1枚の打ち場所は自由なので、最も都合の良い場所(今回は31)に飛を打つことができます。

31 飛は取れません。同 n 馬は自玉への王手となるからです。3 手目を(23n 角成,42n 角生)としてしまうと、今度は角が単独で動けるので31n 角生で詰みません。本局ではボカスカルールの細則 3)「成・不成は1枚毎に自由」は行使されませんでした。後段の「持駒も同じ種類の駒はすべて同時に打つ」は使われたわけです。また31n 飛は限定打であり、それ以外の王手では詰まないことを確認してください。

なお今回、ボカスカルールに関して「動かす距離も揃えなければいけなかったでしょうか」という質問をいただきました。

実際は「可能な限り揃える」というルールなのですが(過去のWFP作品展では71-9、82-7等でこのルール設定が利用されています)、今のルール説明だと表現が曖昧なので、文面を変えた方が良さそうですね。

具体的には細則 2)で、「動かさない駒があれば動かせるだけ動かす」とあるのを、「可能な限りすべての駒を同じ距離動かす。動かさない駒があれば動かせるだけ動かす」のように直すのが一案です。次回の出題からルール説明に反映するようにします。

【短評】

園城寺怜さん

ボカスカ詰は初めての解図となるのですが、同時に何手も着手しているようで面白いですね。

井上順一さん

最終手の31 飛が限定打になっている。

たくぼんさん

持駒を同時に打てるというのを忘れるんですよね。全て2枚ずつというのが面白い手順。

はなさかしろうさん

最初どうやって詰ますのかとと思っていたのですが、合駒しつつ別の地点にも打ててしまうというのはあまりにも強力ですね。

■ 103-11 はなさかしろう氏作（正解6名）※③余詰

変則推理将棋

『入れ替え作業のあっけない幕切れ その2』

「さっきの将棋、途中までしか見られなかったんだけど、その後どうなった？」
「どこまで見てたの？」

①

「先手番で、初形配置から一対の駒の位置を入れ替えただけの状態になったところまでだよ」
「ああ、それなら、その後2手で詰んだよ」
「なるほど。手間の割にあっけない幕切れだったね」

[条件]

- ・初形配置から一対の駒の位置を入れ替えただけの先手番局面から2手で詰んだ

②

「先手番で、初形配置から二対の駒の位置を入れ替えただけの状態になったところまでだよ」
「ああ、それなら、その後1手で詰んだよ」
「なるほど。先手玉にも詰めろがかかっていたから、まあそうなるかな」

[条件]

- ・初形配置から二対の駒の位置を入れ替えただけで、先後双方に詰めろがかかっている先手番局面から1手で詰んだ（詰手順は複数）

③

「先手番で、初形配置から二対の駒の位置を入れ替えただけの状態になったところまでだよ」
「ああ、それなら、その後1手で詰んだよ」
「なるほど。唯一の詰め手順を決めたわけだね」

[条件]

- ・初形配置から二対の駒の位置を入れ替えただけで、詰め手順が唯一である先手番局面から1手で詰んだ

④

「先手番で、初形配置から先手陣内での二対の駒の位置と、後手陣内での一対の駒の位置を入れ替えただけの状態になったところまでだよ。そういえば、自身と同種の駒の利きマスにある駒

があったのが珍しかったな」

「ああ、同種駒のひもがついていた駒があったってことだね。確かに初形配置ではそういう駒は無いからなあ。それで結局は、その後1手で詰んだよ」

[条件]

- ・初形配置から先手陣内の二対の駒の位置と、後手陣内の一対の駒の位置を入れ替えただけで、同種駒のひもがついている駒がある先手番局面から1手で詰んだ

⑤

「先手番で、初形配置から先手陣内での一対の駒の位置と、後手陣内での二対の駒の位置を入れ替えただけの状態になったところまでだよ」
「ああ、それなら、その後1手で詰んだよ」
「いやあまったく、手間の割にあっけない幕切ればかりだったね」

[条件]

- ・初形配置から先手陣内の一対の駒の位置と、後手陣内の二対の駒の位置を入れ替えただけの先手番局面から1手で詰んだ

①～⑤それぞれについて、入れ替わった駒と入れ替え局面からの詰め手順を推理してください。

なお、②のみ詰め手順が複数あります。

※本問の入れ替え後の状態は全て、初形配置から合法で到達可能な局面です。

「一対の駒の位置の入れ替え」とは、駒Aが駒Bの初形位置に、駒Bが駒Aの初形位置に配置されることを意味し、各駒の所属は変わらず、成ることもできません。

「二対の駒の位置の入れ替え」とは、AとBの位置の入れ替え、CとDの位置の入れ替え（A、B、C、Dはそれぞれ別の駒）であり、 $B=C$ で結局は $A \rightarrow B \rightarrow D \rightarrow A$ の3枚循環や、 $A \rightarrow B \rightarrow C \rightarrow D \rightarrow A$ の4枚循環ではありません。

なお、複数の位置の入れ替えは最終的に入れ替え後の状態が実現されれば良く、一対毎の入れ替えが逐次遂行可能であるとは限りません。

【解答】

① (入れ替わった駒)

59の先手玉と22の後手角

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	瀬	金	王	金	瀬	科	皇	一
	飛						王		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	角						飛		八
香	桂	銀	金	馬	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

(詰手順)

23王 22飛 まで 2手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	瀬	金	王	金	瀬	科	皇	一
							飛		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	王	歩	三
									四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	角						飛		八
香	桂	銀	金	馬	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

(作者のコメント及び解説)

持駒なしで後手の指し手は1手のみなので、後手の駒を先手陣に送り込むだけでは詰みません。交換する駒の一方を先手玉にして後手陣内に送り込み、後手の駒で包み込んで討ち取る必要があります。

交換のもう一方が行き所のない駒にならないことと、交換後の局面で後手玉に王手がかからないようにすることを考えると、先手玉と交換できる駒は飛角銀のみ。飛と71銀は詰みがなく、31銀は初形から到達不可能な局面です。22角との交換の場合は直前の着手で42の銀を

31に引いて両王手が掛かった状態なので、初形から到達可能です。

② (入れ替わった駒)

59の先手玉と41の後手金、51の後手玉と69の先手金

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	瀬	金	王	金	瀬	科	皇	一
	飛						角		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	角						飛		八
香	桂	銀	王	馬	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

(詰手順)

78銀 または 68飛 まで 1手

(詰上り例)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	瀬	金	王	金	瀬	科	皇	一
	飛						馬		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	角	銀					飛		八
香	桂		王	馬	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

(作者のコメント及び解説)

②③

こちらでも後手玉を先手陣に送り込むのですが、1手なので後手玉に王手がかかってはいけません。交換可能駒の玉飛角金銀の位置はいずれも駒の利きが1乃至2枚あり、交換は二対なので、利きが1枚の位置の先手駒と後手玉を交換し、後手玉への利き駒をもう一对の交換で外すこととなります。

利きが1枚の駒は飛、右銀、両金ですが、飛か右銀と後手玉とを交換してしまうと詰みに持っていきなくなりますので、候補は両金です。

まず②、先手玉にも詰めろをかけるのですから、もう一対の駒交換は先手陣内では不可で、先手玉を後手駒と交換しなければなりません。どちらの玉も詰めろにするには、双方の玉をそれぞれ相手の左金と交換する必要があります。

③ (入れ替わった駒)

59の先手玉と29の先手桂、
51の後手玉と49の先手金

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	銀	金	金	銀	科	皇	一	
	飛					角		二	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三	
								四	
								五	
								六	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七	
	角					飛		八	
香	桂	銀	金	桂	王	銀	王	香	九

持駒 なし

(詰手順)

48 飛 まで 1手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	銀	金	金	銀	科	皇	一	
	飛					角		二	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三	
								四	
								五	
								六	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七	
	角			飛				八	
香	桂	銀	金	桂	王	銀	王	香	九

持駒 なし

(作者のコメント及び解説)

次いで③、後手玉を69の先手金と交換すると、詰め手順は②同様、少なくとも2通り生じ

ます。そこで、後手玉を49の先手金と交換してみるのですが、39の先手銀が浮いてしまいます。ということで、39銀にひもを引っかけて49への利きを外すように先手玉の交換先を選ぶことになります。

④ (入れ替わった駒)

先手：27の歩と99の香、29の桂と97の歩
後手：51の玉と22の角

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	銀	金	金	銀	科	皇	一	
	飛					王		二	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三	
								四	
								五	
								六	
桂	歩	歩	歩	歩	歩	歩	香	歩	七
	角					飛		八	
歩	桂	銀	金	王	金	銀	歩	香	九

持駒 なし

(詰手順)

23 香成 まで 1手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	銀	金	金	銀	科	皇	一	
	飛					王		二	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	香	歩	三
								四	
								五	
								六	
桂	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	七
	角					飛		八	
歩	桂	銀	金	王	金	銀	歩	香	九

持駒 歩

(作者のコメント及び解説)

後手陣内での交換が一对なので単騎詰は不可能。ということで、先手飛の先に香を持って来ることを考えます。課題は端での二歩の解消で、29の桂を7段目の歩と交換すれば良いことになります。同種駒のひも条件から、交換先は

9筋になります。

⑤ (入れ替わった駒)

先手：97の歩と99の香

後手：51の玉と91の香、82の飛と81の桂

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王	飛	飛	香	香	香	香	香	香	一
	香						飛		二
香	香	香	香	香	香	香	香	香	三
									四
									五
									六
香	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	角						飛		八
歩	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

(詰手順)

93香生 まで 1手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王	飛	飛	香	香	香	香	香	香	一
	香						飛		二
香	香	香	香	香	香	香	香	香	三
									四
									五
									六
	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	角						飛		八
歩	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

(作者のコメント及び解説)

今度は先手陣内での交換が一对なので、走り駒を同筋の歩と交換し、単騎詰を狙うしかありません。後手玉は1段目に置き、もう一对の交換で壁をつくれる筋を探します。

【解説】

筆者の学生時代、将棋部で「初期配置で歩以外の自陣の駒を一組入れ替えられるなら、どの駒とどの駒を入れ替えるか」という話題が持ち上がったことがあります。このとき特に振り飛

車党の人気を集めたのが「飛と玉の入れ替え」でした。これなら最初から中飛車で、美濃囲いもすぐに組めてしまいます。実際、先手だけこの配置にしてソフトに読ませると(ソフトによって違いはありますが)、「左香落ち」の差に匹敵するか、それを凌ぐ評価値を示します。

今回の作品群は、実戦初形からわずかな駒を入れ替えて、短手数で詰む局面を作れという問題です。詰棋人なら、解図欲をそそられる問題設定でしょう。

作者自身による解答・解説もあるので、ここでは簡単に各題の特徴をおさらいします。

①は2枚の駒で王手が掛かる位置に玉を持ってくるのが特徴です。普通ならこんな局面は「逆算不能」の烙印を押されるのですが、本局は開き王手の逆算が可能なので、その例外となっています。このロジックは102-10(青木裕一氏作)を思い出させますね。

②は先後同形で手番側が1手詰で勝になる局面を作る問題です。ただ、詰手順が限定できないので、たくぼん氏の短評にあるように、この問題は省いても良かったかもしれません。

③は残念ながら余詰でした。作意以外に以下の解があります。(井上順一氏指摘)

(入れ替わった駒)

先手 88角と69金、先手 79銀と後手 51玉

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王	飛	飛	香	銀	香	飛	香	王	一
	飛						飛		二
香	香	香	香	香	香	香	香	香	三
									四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	金						飛		八
香	桂	王	角	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

(詰手順)

78飛 まで 1手

79地点は角と金の2枚が利いているだけに、この入れ替えは盲点ですね。余詰解の解答も井上氏だけでした。

④は二歩禁解消が課題ですが、「同種駒のひも」の条件で解消方法が決まります。一風変わった条件設定のせいか、結構悩んだ人も多かったようです。

⑤は香による実質的単騎詰（他にも先手駒があるので厳密には単騎詰ではないのですが）。普通詰将棋ではめったに見られない筋なので新鮮味があります。解答者からも好評で、この問題だけでも十分に価値があると思います。

今回は③に余詰が生じてしまったのですが、プログラミングが得意な人なら、入れ替えた局面を作るプログラムと f m 等を組み合わせて、機械検討できたかもしれません。

また、実戦初形から適当に駒を入れ替えて詰将棋として成立させるとするのは、詰棋人の好きそうなアイデアです。入れ替え枚数の制限を緩和し、多少の飾り駒を甘受すれば、かなり長手数「作品」もできそうに思います。どなたか挑戦してみませんか？

【短評】

一乗谷酔象さん

5局とも楽しめた。②⑤は比較的易しく③④は結構悩みました。
二対使うと二歩禁を解消できるので考えるところが増えますね。

園城寺怜さん

どれもスッキリ解けて気持ちの良い作品でした。好みの詰め上がりは(5)です。

井上順一さん（※③のみ余詰解）

解いてみようと思わせてくれる出題形式だったので、久々に推理将棋をやってみた。解けた分だけのつもりが全部解にたどり着いたのは望外。

- (1) 入れ替えた局面は後手が 42 銀を 31 に引いたところで、初形から到達可能。
詰上り形もおもしろい。
- (2) 先後同形なので先手玉にも同じ詰めろがかかっている。
- (3) 先手 88 角と 69 金、先手 79 銀と後手 51 玉を入れ替えた局面から 78 飛まで 1 手後手玉の位置がうまく決まっている。
- (4) 双方自陣内での入れ替えなので、詰上りが

想定しやすい。同種駒のひもの条件でどちらの香を使うかが決まる。

(5) 単騎のすかし詰。先手陣内の入れ替えが 1 対なので、発見しやすい。

たくぼんさん

- ① 王手がかかった状態になるのが盲点でした。
- ② 限定されない部分があるので外してもよかった気がします。
- ③ 先手駒同士がちょっとうっかりしました。
- ④ これが最後まで残りました。
1 対入れ替えの時点で二歩になるので除外して考えてました。
- ⑤ これが一番作品としては素晴らしいと思います。飛桂交換で一気に利きが消されるのにビックリです。

Pontamon さん

王手局面からの①は裏をかかれた。
しかも 42 の銀が 31 銀と引いての両王手とは手が込んでいる。
それより、104 回の『入れ替え作業のあつけない幕切れ その 3』が解けない。
放置して 3 週間、このままあと 1 ヶ月も過ぎてしまう予感。詰パラ推理将棋の初不正解と同様に条件を勘違いしているのか。

はなさかしろうさん

- ① 詰将棋おもちゃ箱の推理将棋 108-1 (WFP101 号に掲載) を投稿した時点では王手局面からスタートできることに気付いていませんでした。この順を見つけたので 1 手と 0 手も狙ってみることにしましたが、さて。
- ② 二対入れ替えられると 1 手でもいろいろ詰んでしまいます。
- ③ この問題に余詰があるとは！
79 に利きを持つ 2 枚を入れ替えると利きがなくなるのが盲点でした。素晴らしいご指摘、参りました。
- ④ 「同種駒のひも云々」というのもやや無理矢理ぎみでしょうか。
- ⑤ 入れ替えが多いのが難ですが、1 手ではこの⑤が好みです。

■ 103-sp 神無太郎氏作 (正解1名!)

成禁協力白玉詰 10手

8 7 6 5 4 3 2 1

								一
	☆				歩			二
								三
								四
								五
					★			六
								七
								八

持駒 飛2香

※★:攻方Torus-Root-RSA-2048-Leaper 王

☆:受方Torus-Triple-Root-RSA-2048-Leaper 王

【ルール】

• トーラス盤

同じ段同士、同じ筋同士が上下左右で繋がった盤。

(※本局で使用するのは 8×8 盤であり、トーラス盤ではない)

• Torus-Root-RSA-2048-Leaper (★)

移動距離が RSA-2048 の正の平方根の八方桂。

ただし、盤がまるでトーラスであるかのように動き、各利きは盤内にある。

• Torus-Triple-Root-RSA-2048-Leaper (☆)

移動距離が RSA-2048 の正の平方根の 3 倍の八方桂。

ただし、盤がまるでトーラスであるかのように動き、各利きは盤内にある。

RSA-2048 :

2519590847565789349402718324004839857142928212620403202777713783604366202070759555626
 4018525880784406918290641249515082189298559149176184502808489120072844992687392807287
 7767359714183472702618963750149718246911650776133798590957000973304597488084284017974
 2910064245869181719511874612151517265463228221686998754918242243363725908514186546204
 3576798423387184774447920739934236584823824281198163815010674810451660377306056201619
 6762561338441436038339044149526344321901146575444541784240209246165157233507787077498
 1712577246796292638635637328991215483143816789988504044536402352738195137863656439121
 2010397122822120720357

(RSA-2048 出展 : https://en.wikipedia.org/wiki/RSA_numbers)

【解答】

78 飛 77 角 同飛 76 角 75 香 74 金 73 飛 同金 54 角 同角 まで 10 手

(詰上り)

	☆				歩				
	香								
			馬						
	香								
					★				
	飛								

持駒 なし

【作者のコメント及び解説】

RSA-2048 が 2 つの素数の積ならば、8×8 盤上での(★, ☆)は、(Dummy, Dummy), (Torus-Knight, Torus-Zebra), (Torus-Zebra, Torus-Knight), (Torus-Knight + Torus-Zebra, Torus-Knight + Torus-Zebra)のいずれかである (※2 参照)。どの組み合わせなのかまでは特定できていないが、どの組み合わせであったとしても 36★と 72☆は動くことができず、作意成立かつ作意以外不成立である。

Dummy : 利きなし

Torus-Knight : {(1, 2)+(1, 6)+(2, 7)+(6, 7)}-Leaper

Torus-Zebra : {(2, 3)+(2, 5)+(3, 6)+(5, 6)}-Leaper

※2 : ★と☆の特定

《記法》

x の y 乗を x^y と表す。

x, y, z, w が整数のとき、 $x \equiv y \pmod 8$ を単に $x \equiv y$ と表し、 $x \equiv z$ かつ $y \equiv w$ を $(x,y) \equiv (z,w)$ 等と表す。

《定理》(WFP119 号「自然数を 2 つの整数の平方の和で表す」からの抜粋。一部表現変更)

自然数 n を 2 つの整数の平方の和で表す方法は、n が

$$n = 2^a \times p_1^{b_1} \times p_2^{b_2} \times \dots \times p_s^{b_s} \times q_1^{c_1} \times q_2^{c_2} \times \dots \times q_t^{c_t}$$

と素因数分解できたとして、 $4(b_1+1)(b_2+1)\dots(b_s+1)$ 通りである。

ただし、

p_i ($1 \leq i \leq s$) はすべて異なる $4k+1$ 型の素数、

q_i ($1 \leq i \leq t$) はすべて異なる $4k+3$ 型の素数で、 c_i ($1 \leq i \leq t$) がすべて偶数の場合。

c_i が 1 つでも奇数だと、n は 2 つの整数の平方の和では表せない。

《系 1》

p は $4k+1$ 型の素数で、a, b は $p = a^2 + b^2$ を満たす整数とする。

$p = m^2 + n^2$ を満たす整数の組(m,n)は、 $(\pm a, \pm b)$, $(\pm b, \pm a)$ の 8 組である。複号任意。

この 8 組が $p=m^2+n^2$ を満たすことは明らか。

この 8 組には重複がない。それには $a \neq 0, b \neq 0, a^2 \neq b^2$ を示せばよい。

$a=0$ ならば $p=b^2$ であり、 $b=0$ ならば $p=a^2$ であり、 $a^2=b^2$ ならば $p=2a^2$ である。

つまり、 p は平方数か偶数となるが、これは p が $4k+1$ 型の素数であることと矛盾する。

定理から $p=m^2+n^2$ を満たす整数 m, n は上記 8 組のみである。

《系 2》

p, q は異なる $4k+1$ 型の素数で、 x, y, z, w は $p=x^2+y^2, q=z^2+w^2$ を満たす整数とする。

$pq=m^2+n^2$ を満たす整数の組 (m,n) は、 $(\pm a, \pm b), (\pm b, \pm a), (\pm c, \pm d), (\pm d, \pm c)$ の 16 組である。

複号任意。ただし、 $a=xz+yw, b=xw-yz, c=xz-yw, d=xw+yz$ である。

この 16 組が $pq=m^2+n^2$ を満たすことは明らか。

前者 8 組内および後者 8 組内に重複がないことは、系 1 と同様に示すことができる。

前者 8 組と後者 8 組の間にも重複はない。それには $a^2 \neq c^2, a^2 \neq d^2$ を示せばよい。

$$a^2 - c^2 = 4xyzw \neq 0 \quad \because x \neq 0, y \neq 0, z \neq 0, w \neq 0$$

$$a^2 - d^2 = (x^2 - y^2)(z^2 - w^2) \neq 0 \quad \because x^2 \neq y^2, z^2 \neq w^2$$

定理から $pq=m^2+n^2$ を満たす整数 m, n は上記 16 組のみである。

《系 3》

p, q は異なる $4k+1$ 型の素数で、 a, b は $pq=a^2+b^2$ を満たす整数とする。

このような (a,b) は 16 組あり、それぞれ $9pq=(3a)^2+(3b)^2$ を満たす。

定理から $9pq=m^2+n^2$ を満たす整数 m, n は上記 16 組の $(3a, 3b)$ のみである。

《説明》

$RSA-2048=pq$ (p, q は素数)だとすると、 $RSA-2048 \equiv 357 \equiv 5 \pmod{8}$ なので、表 1 から、

$(p,q) \equiv (1,5), (3,7), (5,1), (7,3) \pmod{8}$

表 1. $pq \pmod{8}$

p/q	1	3	5	7
1	1	3	5	7
3	3	1	7	5
5	5	7	1	3
7	7	5	3	1

$(p,q) \equiv (3,7), (7,3) \pmod{8}$ の場合

p も q も $4k+3$ 型の素数である。

$p \neq q$ なので、 $pq=m^2+n^2$ を満たす整数 m, n は存在しない。

同様に $9pq=m^2+n^2$ を満たす整数 m, n も存在しない。

$\therefore \star = \star = \text{Dummy}$

$(p,q) \equiv (1,5), (5,1) \pmod{8}$ の場合

p も q も $4k+1$ 型の素数である。

$p \neq q$ なので、 $p=x^2+y^2, q=z^2+w^2$ を満たす整数 x, y, z, w が存在し、

$a=xz+yw, b=xw-yz, c=xz-yw, d=xw+yz$ とおけば、 $pq=a^2+b^2=c^2+d^2$ となる。

また、これら以外に $pq=m^2+n^2$ を満たす整数 m, n は存在しない。

$\therefore \star = \text{Torus}-\{(a,b)+(c,d)\}-\text{Leaper}$

表 2 から、8×8 盤上では、

Torus-(a, b)-Leaper=Torus-Knight (■) or Torus-Zebra (□)

Torus-(c, d)-Leaper=Torus-Knight or Torus-Zebra

∴ ★=Torus-Knight or Torus-Zebra or Torus-Knight + Torus-Zebra

★=Torus-Knight の場合、☆=Torus-(1×3, 2×3)-Leaper=Torus-(3, 6)-Leaper=Torus-Zebra

★=Torus-Zebra の場合、☆=Torus-(2×3, 3×3)-Leaper=Torus-(6, 1)-Leaper=Torus-Knight

★=Torus-Knight + Torus-Zebra の場合、☆=Torus-Zebra + Torus-Knight (※3 参照)

表 2. $a^2+b^2 \pmod 8$ (c^2+d^2 も同様)

a/b	0	1	2	3	4	5	6	7
0	0	1	4	1	0	1	4	1
1	1	2	5	2	1	2	5	2
2	4	5	0	5	4	5	0	5
3	1	2	5	2	1	2	5	2
4	0	1	4	1	0	1	4	1
5	1	2	5	2	1	2	5	2
6	4	5	0	5	4	5	0	5
7	1	2	5	2	1	2	5	2

※3 :

★=Torus-Knight + Torus-Zebra とはならないこと、したがって☆=Torus-Zebra + Torus-Knight ともないことは分かっているが、それによって結果が変わるわけではないので、説明は割愛する。

※4 : RSA-2048 は RSA-617 ($\equiv 733 \equiv 5$) でも代替可。RSA-500 ($\equiv 361 \equiv 1$) では代替不可。

RSA-617 :

2270180129378501419358040512020458674106123596276658390709402187921517148311913989487
 0133091111044901683400949483846818299518041763507948922590774925466088171879259465921
 0265970467004498198990968620394600177430944738110569912941285428918808553627074076707
 2259373777266697344097736124333639730805176309150683631079531260723952036529003210584
 8839507981452307299417185715796297454995023505316040919859193718023307414880446217922
 8008317660409386563445710347785534571210805307363945359239326518660305150410609664373
 1332367283153932350006793710754195543736243324836124252594586880235391676618153237585
 5504886901432221349733

RSA-500 :

1897194133748626656330534743317202527237183591953428303184581123062450458870768760594
 3212347625766427494554764419515427586743205659317254669946604982419730160103812521528
 5400688031516401611623963128370629793265939405081077581694478604172141102464103804027
 8701109808664214800025560454687625137745393418221549482127733567173515347265632844800
 1134940926442438440198910908603252678814785060113207728717281994244511323201949222955
 423789860663107489107472242561739680319169243814676235712934292299974411361

【解説】

きちんと定義されているのに、利きが分からない駒。そんな駒を使っているのに、詰手順だけは分かるという不思議な詰将棋。可知と不可知の境界線がどこにあるのか、改めて考えさせる作品です。

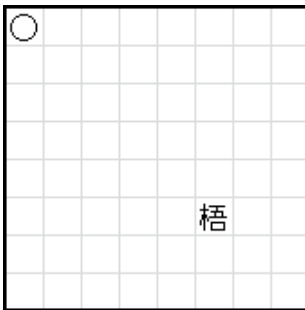
本局は攻方玉が Torus- $\sqrt{\text{RSA}-2048}$ -Leaper、受方玉が Torus- $3\sqrt{\text{RSA}-2048}$ -Leaper の性能になっています。

\sqrt{N} -Leaper とは、縦横 1 マス分を距離 1 としたときに、距離 \sqrt{N} を跳ぶ駒です。例えば、チェスの Knight (騎) は縦横 1 対 2 の地点に跳ぶので $\sqrt{5}$ -Leaper になります。

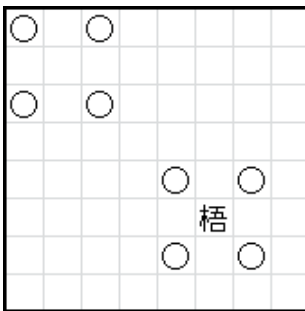
\sqrt{N} -Leaper は N の値が大きいと盤から利きがはみ出します。そこで神無太郎氏が考案したのが Torus- \sqrt{N} -Leaper です。この駒にとっては盤がトーラス盤 (ドーナツ型をした盤) に見えるので、どんな距離を動いても自由ですし、しかも着地点はちゃんと盤内にあります。

本局の出題時には $\sqrt{50}$ -Leaper (梧) の例を挙げました。通常の $\sqrt{50}$ -Leaper だと多くの利きが盤上からはみ出しますが、Torus- $\sqrt{50}$ -Leaper なら、はみ出した利きが盤内に戻ってきます。

梧が $\sqrt{50}$ -Leaper の場合



梧が Torus- $\sqrt{50}$ -Leaper の場合



本局では Torus- $\sqrt{\text{RSA}-2048}$ -Leaper の利きを考えるわけですが、その前に次の事実を頭に入れて貰わねばなりません。

「 \sqrt{N} -Leaper の自然数 N は勝手に選べない」

先程、騎は $\sqrt{5}$ -Leaper だという話をしました。では、例えば $\sqrt{6}$ -Leaper はどこに跳べば良いのでしょうか？

実はどこにも跳べません。6 は 2 つの平方数の和で表せないのです。跳び先がちゃんとマス目に収まらないのです。第 65 回 WFP 作品展の出題稿でも似たような話題を取り上げたことがあるので、憶えている方もいらっしゃるでしょう。

5 は 1^2+2^2 で表せるので、跳び先があります。50 も 5^2+5^2 や 1^2+7^2 で表せるので、跳び先があります。では RSA-2048 はどうでしょう？ そもそも自然数 N が 2 つの平方数の和で表せるのは、どんな時なのでしょう？

その答えが、作者が自作解説で《定理》として最初の方で挙げている「ヤコビの二平方和定理」と呼ばれる定理です。(この定理について詳しく知りたい方は「Security Akademeia」というサイトの「一般の自然数の 2 平方和」(<http://akademeia.info/index.php?2%A4%C4%A4%CE%CA%BF%CA%FD%BF%F4%A4%CE%CF%C2#q76ad677>) の記事をご覧ください。)

もちろん、この《定理》を使っても RSA-2048 を 2 つの平方数の和として表せるわけではありません。でも Torus- $\sqrt{\text{RSA}-2048}$ -Leaper が、 8×8 の盤でどんな利きを持つか、可能性を絞り込むことはできます。

RSA-2048 は相異なる 2 つの素数の積だということは分かっています (RSA-2048 という数を作った人が嘘を吐いていなければ、の話です)。

また RSA-2048 の具体的な表示から、これが 4 で割ったときに 1 余ることも分かります (余りを知るだけなら末尾二桁を見れば充分です)。

すると、RSA-2048 を作った 2 つの素数は両方共 $4k+1$ 型の素数 (4 で割ったときに 1 余る素数) か、 $4k+3$ 型の素数 (4 で割ったときに 3 余る素数) ということが分かります。

ここで《定理》の最後の二行を思い出してください。

q_i ($1 \leq i \leq t$) はすべて異なる $4k+3$ 型の素数で、 c_i ($1 \leq i \leq t$) がすべて偶数の場合。 c_i が 1 つでも奇数だと、 n は 2 つの整数の平方の和では表せない。

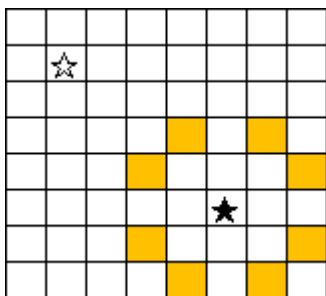
従って RSA-2048 が $4k+3$ 型の 2 つの素数の積ならば RSA-2048 は 2 つの平方数の和で表せません。Torus- $\sqrt{\text{RSA}-2048}$ -Leaper はどこにも跳べないのです。Torus- $3\sqrt{\text{RSA}-2048}$ -Leaper にも同様の論法は当てはまり、これもどこにも跳べません。初形の★と☆を不動玉に置き換えれば、解が求まり、それは作意に一致します。

次は RSA-2048 が $4k+1$ 型の 2 つの素数の積である可能性を考えます。今度は RSA-2048 が 2 つの平方数の和で表せることが保証されているので、★も☆もどちらも跳び先があります。

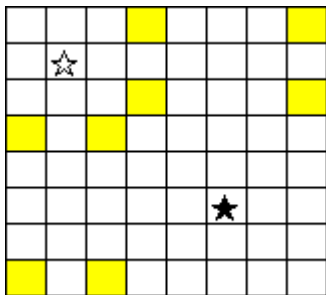
具体的な跳び先は相変わらず不明ですが、盤が 8×8 であることを利用すれば、★と☆の一方が Torus-Knight-Leaper (Torus- $\sqrt{5}$ -Leaper) であり、他方が Torus-Zebra-Leaper (Torus- $\sqrt{13}$ -Leaper) であることが求まります。

どちらの場合も★と☆は互いの利きが重なり合い、どちらも動くことはできません。つまり、詰手順は両者が不動玉の時と同じになるのです。

★が Torus- $\sqrt{5}$ -Leaper のとき (■が跳び先)



★が Torus- $\sqrt{13}$ -Leaper のとき (■が跳び先)



つまり本局は、

1. Torus- $\sqrt{\text{RSA}-2048}$ -Leaper が利きを持たないとき、Torus- $3\sqrt{\text{RSA}-2048}$ -Leaper も利きを持たない。
2. Torus- $\sqrt{\text{RSA}-2048}$ -Leaper が利きを持つとき、これと Torus- $3\sqrt{\text{RSA}-2048}$ -Leaper が互いに利きを相殺する位置に置かれている。

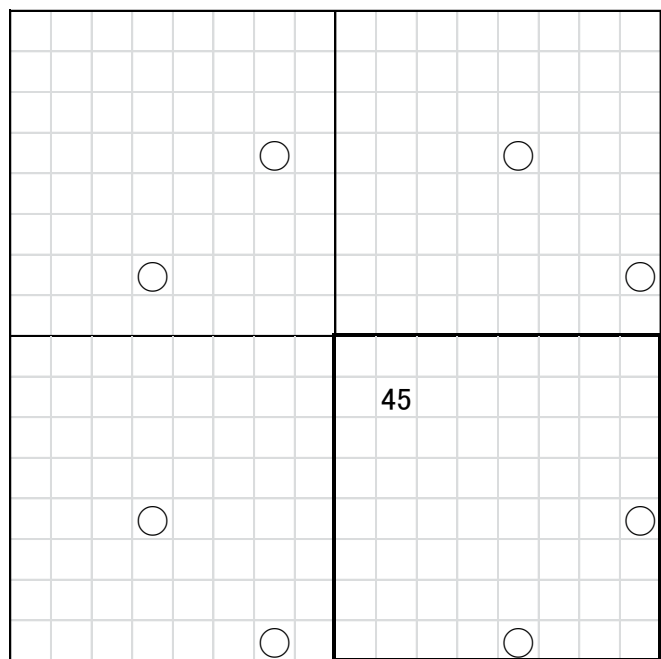
という 2 つの事実から、RSA-2048 の正体が何であれ、「不動玉」の成禁協力白玉詰を解くのに同じになるわけです。

本局の初形には意味深な 32 歩が置かれていますが、これは自玉の動きを制限するためではなく、斜対称の余詰順を消すのが目的だったのです。

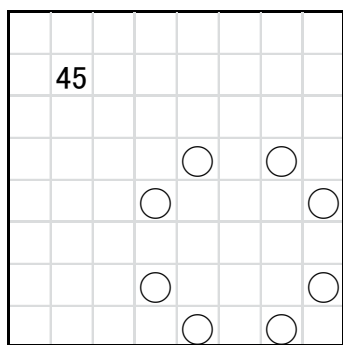
抽象的な議論では実感が湧かないという方のために、小さい数で実験をしてみましょう。

★が Torus- $\sqrt{5}$ -Leaper のとき、☆は Torus- $\sqrt{45}$ -Leaper ($45=3^2+6^2$) です。

まずは $\sqrt{45}$ -Leaper を 8×8 盤の 72 地点に置き、仮想的な盤を加えて、 8×8 盤からはみだした利き先を確認します。



この散らばった利きを元の 8×8 盤に集めてみましょう。

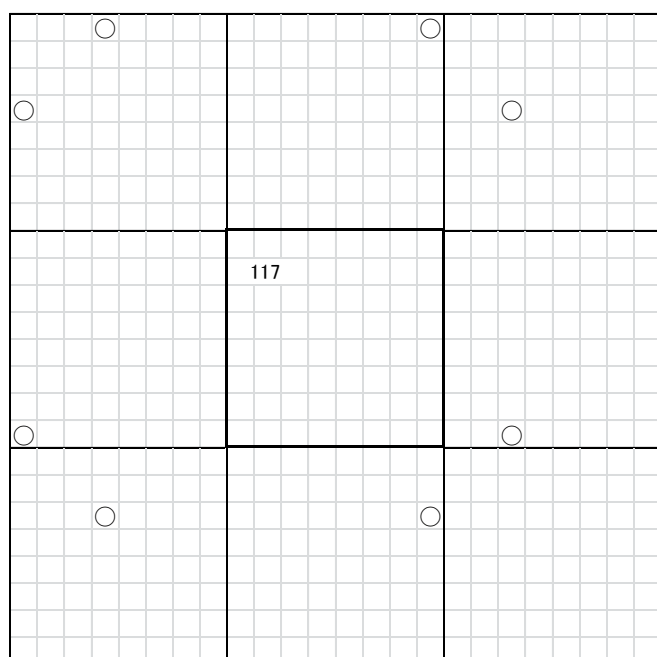


見事に八方桂の形が浮かび上がりました。
36 地点に Torus- $\sqrt{5}$ -Leaper を置いたときの利きと一致していますね。

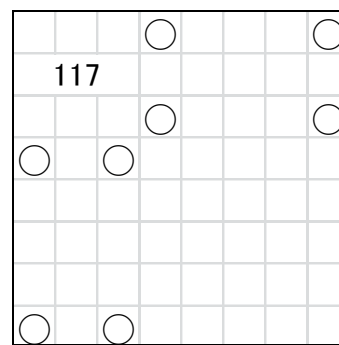
次は★が Torus- $\sqrt{13}$ -Leaper のときです。

$13=2^2+3^2$ なので、これは Torus-Zebra-Leaper です。このとき、☆は Torus- $\sqrt{117}$ -Leaper ($117=6^2+9^2$) となります。

$\sqrt{117}$ -Leaper を 8×8 盤の 72 地点に置き、仮想的な盤を加えて、 8×8 盤からはみだした利き先を確認します。



この散らばった利きを元の 8×8 盤に集めてみましょう。



ちょっと分かりにくいかもしれませんが、これは 8×8 盤の 36 地点に Torus- $\sqrt{13}$ -Leaper を置いたときの利きと見事に一致しています。

もちろん、こうした現象は偶然に起こったわけではありません。

RSA-2048 という 8 で割ると 5 余る数を選んだこと、 8×8 盤を使ったこと、Torus- \sqrt{N} -Leaper と Torus- $3\sqrt{N}$ -Leaper のペアを選んだこと、その 2 つを適切な位置に配置したこと……そのすべてが、この「利きの相殺」という現象を起こすための作者の選択だったのです。

最後にこの作品が生まれた背景を説明しましょう。

それは高坂研氏の「私のベストテン (番外編)」 (<http://open.mixi.jp/user/10857363/diary/1966238840>) でした。

この記事では $\sqrt{67280421310721}$ -Leaper を用い、(対称解を除いた) 唯一の打場所を求めさせる作品が出題されていました。ただ、この作品には 2 つ物足りない点がありました。

一つは、「67280421310721」という数が余りにも 小さ過ぎる ということです。

この数は人間にとっては大きな数ですが、計算機にとってはそうではありません。試しに、WolframAlpha (<http://www.wolframalpha.com/>) で "Solve $x^2+y^2=67280421310721$ over the integer" と入力してみてください。(±1394180, ±8083111) の解答を即答します。

もう一つは、ここで使われた数「67280421310721」が $4k+1$ 型の素数という、あまりにも都合が良い 数であることです。

$4k+1$ 型の素数は必ず 2 つの平方数の和で表すことができます。これは「フェルマーの二平方和定理」などと呼ばれる定理です。でも、2

つの平方数の和で表せるのは $4k+1$ 型の素数だけではありません。他にいくらでもあるのです。動物に喩えれば、血統書付きの毛並みの良い犬だけが犬ではない、ということです。

この2つの不満を解消すべく、現在の計算機でも手に負えないくらい巨大で、できるだけ正体不明の数を使った詰将棋を作るといふ、無謀にも思える挑戦から生まれたのが本局だったので。

ただ、作者の野心的な挑戦が 100%成功したかということ、そうではないようです。

解答が寄せられてから分かったことですが、本局を解くのに「ヤコビの二平方和定理」も、「RSA-2048 は2つの異なる素数の積である」という仮定も不要でした。実は RSA-2048 の末尾4桁「0357」だけで正解を導けるのです。「卵を割るのにハンマーは必要ない」というわけですね。

更に、作者が想定していた「 8×8 盤では、★と☆が不動でない場合、一方が Torus-Knight-Leaper (Torus- $\sqrt{5}$ -Leaper) であり、他方が Torus-Zebra-Leaper (Torus- $\sqrt{13}$ -Leaper) と同等である」という分析結果も、「 8×8 盤では、★と☆が不動でない場合、★が Torus-Knight-Leaper (Torus- $\sqrt{5}$ -Leaper) であり、☆が Torus-Zebra-Leaper (Torus- $\sqrt{13}$ -Leaper) と同等である」という、より精密な結果に置き換えられることも分かりました。

作者は主に「8 で割った余り」に着目して両者の利きを分析していたのですが、「16 で割った余り」や「64 で割った余り」を使えば、計算は面倒になりますが、より多くの情報が得られるのです。

本局に解答を寄せてくださった解答者の短評から、その解法を読み取っていきましょう。

【短評】

園城寺怜さん

略証

$R = \text{RAS-2048}$ と置く。

「攻方玉・受方玉はともに合法に動かせる手が存在しない」ことを示す。

$m^2 + n^2 = R$ を満たす m, n が存在するかどうかで場合分けする。

- (i) 存在しない場合、双方の玉はともに (0,0)leaper となり命題を満たす。

- (ii) 存在する場合、mod 16 を取ると

$$m^2 + n^2 = R \equiv 5 \pmod{16}$$

これを満たす m, n の組は $8k \pm 1, 8k \pm 2$ の組み合わせしかなく、このことから玉はそれぞれ torus-(1,2)leaper、torus-(2,3)leaper となる。ここで双方の玉の利きを調べると利きが完全に被っていることが分かる。

ゆえに玉を移動する着手は違法手となり、双方ともに玉は移動できないとわかり、命題は示された。

以上より、双方の玉を Royal 零とみなして解図して解を得る。

短評

9 × 9 盤だと勘違いしてずっと悩んでいました… (苦笑)

☆16 で割った余りに着目して、本局を正解したのは園城寺怜氏。見事、ただ一人の正解者となりました。

この証明は略式なので、9R=9 × RAS-2048 に関する言及がカットされています。これを読む方は「 $m^2+n^2=R$ を満たす m, n が存在しないとき、 $x^2+y^2=9R$ を満たす x, y も存在しない」とか「 $8k \pm 1, 8k \pm 2$ を各3倍した $8 \times 3k \pm 3, 8 \times 3k \pm 6$ は mod 8 では $8K \pm 3, 8K \pm 2$ と同じ」などの文章を補って読んでください。

☆参考までに、 x^2+y^2 の 16 による剰余表をお見せします。緑色に着色した「5」、橙色に着色した「13」が、それぞれ R と 9R を 16 で割った余りに等しく、ここから★が Torus-(1,2)leaper と同等で、☆が Torus-(2,3)leaper と同等だということが判明します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1	2	5	10	1	10	5	2	1	2	5	10	1	10	5	2
2	5	8	13	4	13	8	5	4	5	8	13	4	13	8	5
3	10	13	2	9	2	13	10	9	10	13	2	9	2	13	10
4	1	4	9	0	9	4	1	0	1	4	9	0	9	4	1
5	10	13	2	9	2	13	10	9	10	13	2	9	2	13	10
6	5	8	13	4	13	8	5	4	5	8	13	4	13	8	5
7	2	5	10	1	10	5	2	1	2	5	10	1	10	5	2
8	1	4	9	0	9	4	1	0	1	4	9	0	9	4	1
9	2	5	10	1	10	5	2	1	2	5	10	1	10	5	2
10	5	8	13	4	13	8	5	4	5	8	13	4	13	8	5
11	10	13	2	9	2	13	10	9	10	13	2	9	2	13	10
12	1	4	9	0	9	4	1	0	1	4	9	0	9	4	1
13	10	13	2	9	2	13	10	9	10	13	2	9	2	13	10
14	5	8	13	4	13	8	5	4	5	8	13	4	13	8	5
15	2	5	10	1	10	5	2	1	2	5	10	1	10	5	2

表1 $x^2+y^2 \pmod{16}$

テイエムガンバさん (※無解)

$(8x+a)^2+(8y+b)^2=RSA-2048$ としたときに、
 RSA-2048 を 64 で割った余りが 37 であること
 から、 a と b の値がどのようなときに 64 で
 割った余りが 37 となるか(例: $a=6,b=1$ の場合、
 $a^2+b^2=37$ より成立する)を求めた結果、

Torus-Root-RSA-2048-Leaper
 =Torus-Root-(1,2)-Leaper

Torus-Triple-Root-RSA-2048-Leaper
 =Torus-Root-(2,3)-Leaper

となったのですが、双方の玉が動けないこと
 に気付き、解答を断念せざるを得ませんでした

た。
 ☆テイエムガンバ氏は 64 で割った余りに着目
 して、正解一歩手前まで肉薄しました。

双方の玉が動けないと分かった時点で解答
 を断念しなければ、解答が得られたはずなの
 で、大変惜しいと思います。

64 で割るのは計算が面倒ですが、発想として
 は一番自然な気がします。(面倒な計算も表
 計算ソフトに任せれば一発ですし)

参考までに x^2+y^2 の 64 による剰余表も掲げ
 ましょう。字が潰れて見にくいですが、緑と
 橙がそれぞれ★と☆に対応していることさ
 え分かっただされれば結構です。「何だか綺
 麗な模様だなあ〜」くらいに思うだけでも良
 いでしょう。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63		
1	2	5	10	17	26	37	50	1	18	37	58	17	42	5	34	1	34	5	42	17	58	37	18	1	50	37	26	17	10	5	2	1	2	5	10	17	26	37	50	1	18	37	58	17	42	5	34	1	34	5	42	17	58	37	18	1	50	37	26	17	10	5	2	
2	5	8	13	20	29	40	53	4	21	40	61	20	45	8	37	4	37	8	45	20	61	40	21	4	53	40	29	20	13	8	5	4	5	8	13	20	29	40	53	4	21	40	61	20	45	8	37	4	37	8	45	20	61	40	21	4	53	40	29	20	13	8	5	4
3	10	18	18	25	34	45	58	9	26	45	2	25	50	13	42	9	42	13	50	25	2	45	26	9	58	45	34	25	18	10	9	10	13	18	25	34	45	58	9	26	45	2	25	50	13	42	9	42	13	50	25	2	45	26	9	58	45	34	25	18	10	9		
4	17	20	25	32	41	52	1	16	33	52	9	32	57	20	49	16	49	20	57	32	9	52	33	16	1	52	41	32	25	20	17	16	17	20	25	32	41	52	1	16	33	52	9	32	57	20	49	16	49	20	57	32	9	52	33	16	1	52	41	32	25	20	17	
5	26	29	34	41	50	61	10	25	42	61	18	41	2	29	58	25	58	29	7	41	18	61	42	25	10	61	50	41	34	29	26	25	26	29	34	41	50	61	10	25	42	61	18	41	2	29	58	25	58	29	7	41	18	61	42	25	10	61	50	41	34	29	26	
6	37	40	45	52	61	8	21	36	53	8	29	52	13	40	5	36	5	40	13	52	29	8	53	36	21	8	61	52	45	40	37	36	37	40	45	52	61	8	21	36	53	8	29	52	13	40	5	36	5	40	13	52	29	8	53	36	21	8	61	52	45	40	37	
7	50	53	58	1	10	21	34	49	2	21	42	1	26	53	18	49	18	53	26	1	42	21	2	49	34	21	10	1	58	53	50	49	50	53	58	1	10	21	34	49	2	21	42	1	26	53	18	49	18	53	26	1	42	21	2	49	34	21	10	1	58	53	50	
8	1	4	9	16	25	36	49	0	17	36	57	16	41	4	33	4	41	16	57	36	17	0	49	36	25	16	9	4	1	0	1	4	9	16	25	36	49	0	17	36	57	16	41	4	33	4	41	16	57	36	17	0	49	36	25	16	9	4	1					
9	18	21	26	33	42	53	2	17	34	53	10	33	58	21	50	17	50	21	58	33	10	53	34	17	2	53	42	33	26	21	18	17	18	21	26	33	42	53	2	17	34	53	10	33	58	21	50	17	50	21	58	33	10	53	34	17	2	53	42	33	26	21	18	
10	34	40	45	52	61	8	21	36	53	8	29	52	13	40	5	36	5	40	13	52	29	8	53	36	21	8	61	52	45	40	37	36	37	40	45	52	61	8	21	36	53	8	29	52	13	40	5	36	5	40	13	52	29	8	53	36	21	8	61	52	45	40	37	
11	58	61	2	9	18	29	42	57	10	29	50	9	34	61	26	57	26	61	34	9	50	29	10	57	42	29	18	9	2	61	58	61	2	9	18	29	42	57	10	29	50	9	34	61	26	57	26	61	34	9	50	29	10	57	42	29	18	9	2	61	58			
12	17	20	25	32	41	52	1	16	33	52	9	32	57	20	49	16	49	20	57	32	9	52	33	16	1	52	41	32	25	20	17	16	17	20	25	32	41	52	1	16	33	52	9	32	57	20	49	16	49	20	57	32	9	52	33	16	1	52	41	32	25	20	17	
13	42	45	50	57	2	13	26	41	58	13	34	57	18	45	10	41	10	45	18	57	34	13	58	41	26	13	2	57	50	45	42	41	42	45	50	57	2	13	26	41	58	13	34	57	18	45	10	41	10	45	18	57	34	13	58	41	26	13	2	57	50			
14	5	8	13	20	29	40	53	4	21	40	61	20	45	8	37	4	37	8	45	20	61	40	21	4	53	40	29	20	13	8	5	4	5	8	13	20	29	40	53	4	21	40	61	20	45	8	37	4	37	8	45	20	61	40	21	4	53	40	29	20	13	8	5	
15	34	37	42	49	58	5	16	33	50	5	26	49	10	37	2	33	2	37	10	49	26	9	50	33	18	5	58	48	42	37	34	33	34	37	42	49	58	5	16	33	50	5	26	49	10	37	2	33	2	37	10	49	26	9	50	33	18	5	58	48				
16	1	4	9	16	25	36	49	0	17	36	57	16	41	4	33	4	41	16	57	36	17	0	49	36	25	16	9	4	1	0	1	4	9	16	25	36	49	0	17	36	57	16	41	4	33	4	41	16	57	36	17	0	49	36	25	16	9	4	1					
17	34	37	42	49	58	5	16	33	50	5	26	49	10	37	2	33	2	37	10	49	26	9	50	33	18	5	58	48	42	37	34	33	34	37	42	49	58	5	16	33	50	5	26	49	10	37	2	33	2	37	10	49	26	9	50	33	18	5	58	48				
18	5	8	13	20	29	40	53	4	21	40	61	20	45	8	37	4	37	8	45	20	61	40	21	4	53	40	29	20	13	8	5	4	5	8	13	20	29	40	53	4	21	40	61	20	45	8	37	4	37	8	45	20	61	40	21	4	53	40	29	20	13	8	5	
19	42	45	50	57	2	13	26	41	58	13	34	57	18	45	10	41	10	45	18	57	34	13	58	41	26	13	2	57	50	45	42	41	42	45	50	57	2	13	26	41	58	13	34	57	18	45	10	41	10	45	18	57	34	13	58	41	26	13	2	57	50			
20	17	20	25	32	41	52	1	16	33	52	9	32	57	20	49	16	49	20	57	32	9	52	33	16	1	52	41	32	25	20	17	16	17	20	25	32	41	52	1	16	33	52	9	32	57	20	49	16	49	20	57	32	9	52	33	16	1	52	41	32	25	20	17	
21	58	61	2	9	18	29	42	57	10	29	50	9	34	61	26	57	26	61	34	9	50	29	10	57	42	29	18	9	2	61	58	61	2	9	18	29	42	57	10	29	50	9	34	61	26	57	26	61	34	9	50	29	10	57	42	29	18	9	2	61	58			
22	37	40	45	52	61	8	21	36	53	8	29	52	13	40	5	36	5	40	13	52	29	8	53	36	21	8	61	52	45	40	37	36	37	40	45	52	61	8	21	36	53	8	29	52	13	40	5	36	5	40	13	52	29	8	53	36	21	8	61	52	45	40	37	
23	18	21	26	33	42	53	2	17	34	53	10	33	58	21	50	17	50	21	58	33	10	53	34	17	2	53	42	33	26	21	18	17	18	21	26	33	42	53	2	17	34	53	10	33	58	21	50	17	50	21	58	33	10	53	34	17	2	53	42	33	26	21	18	
24	1	4	9	16	25	36	49	0	17	36	57	16	41	4	33	4	41	16	57	36	17	0	49	36	25	16	9	4	1	0	1	4	9	16	25	36	49	0	17	36	57	16	41	4	33	4	41	16	57	36	17	0	49	36	25	16	9	4	1					
25	50	53	58	1	10	21	34	49	2	21	42	1	26	53	18	49	18	53	26	1	42	21	2	49	34	21	10	1	58	53	50	49	50	53	58	1	10	21	34	49	2	21	42	1	26	53	18	49	18	53	26	1	42	21	2	49	34	21	10	1	58	53		
26	37	40	45	52	61	8	21	36	53	8	29	52																																																				

はなさかしろうさん（※無解）

私の数学力では全く届かない問題ですが、蠅螂の斧を振るって試みての感想を。

まず、RSA-2048 は 2 つの異なる素数の積であるとのことですが、2 つの整数の平方の和で表されるには、2 つの素数が共に $4k+1$ 型でなければならないと思います。

RSA-2048(mod4)は 1 なので、2 つ共 $4k+1$ 型か、2 つ共 $4k+3$ 型かのどちらかなのですが、後者である可能性がなぜ排除できるのか、というのが越えられない最初のハードルでした。

次に、RSA2048 が 2 つの $4k+1$ 型素数の積だとすると、2 つの整数の平方の和で表す方法が 2 通りあることとなります。2 つの整数は、一方が奇数で一方が偶数ですので、チェスボードのように盤を市松模様に塗り分けると、☆、★は共に自身のいる場所とは異なる色の場所に動くことができる、トラス式の最大 16 方桂ということになります。

跳ぶ方向を (n,m) : 基点から $(\pm n, \pm m)$ および $(\pm m, \pm n)$ の方向に移動できることを意味する、と略記すると、16 方は $(0,1)$ 、 $(0,3)$ 、 $(2,1)$ 、 $(2,3)$ 、 $(4,1)$ 、 $(4,3)$ の 6 通りに分けられますが、

- ・ ☆と★は共に 6 通りのうち最大 2 通りに利きを持つ。
- ・ ☆または★の一方が $(n,1)$ に利きを持つ場合、他方は $(n,3)$ に利きを持つ。一方が $(n,3)$ に利きを持つ場合、他方は $(n,1)$ に利きを持つ。

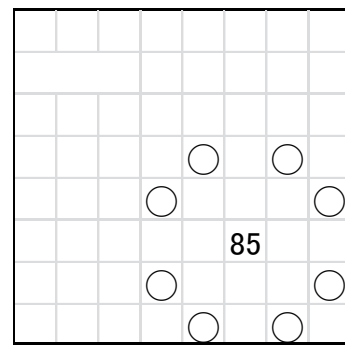
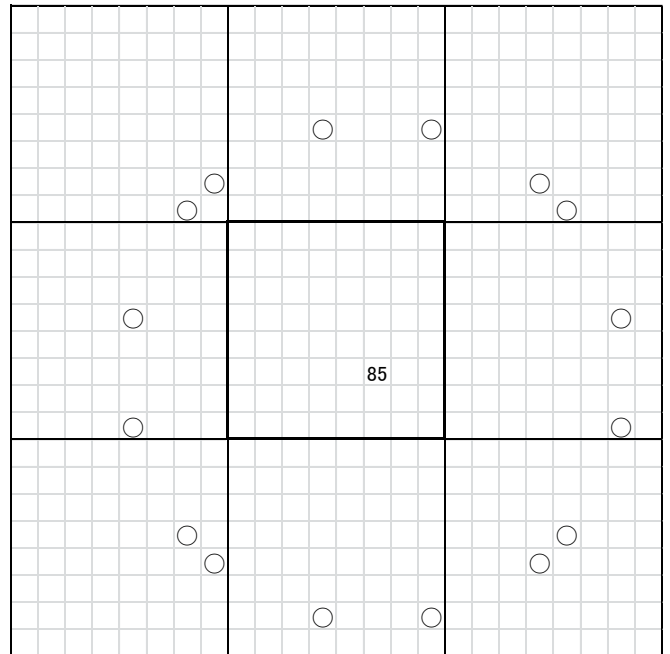
ということかな、と思います。

しかし、☆と★の利きは一意には決められないようです。RSA-2048 の代わりに 65、85、145、221 で試したのですが、跳び先は一定しません。ただ、最大 16 地点に跳べると思われる☆、★が実際にはいずれも 8 地点にしか跳べず、☆の利きと★の利きは重複しませんでした。これが普遍的に言えるのか、というのが越えられない第二のハードルです。

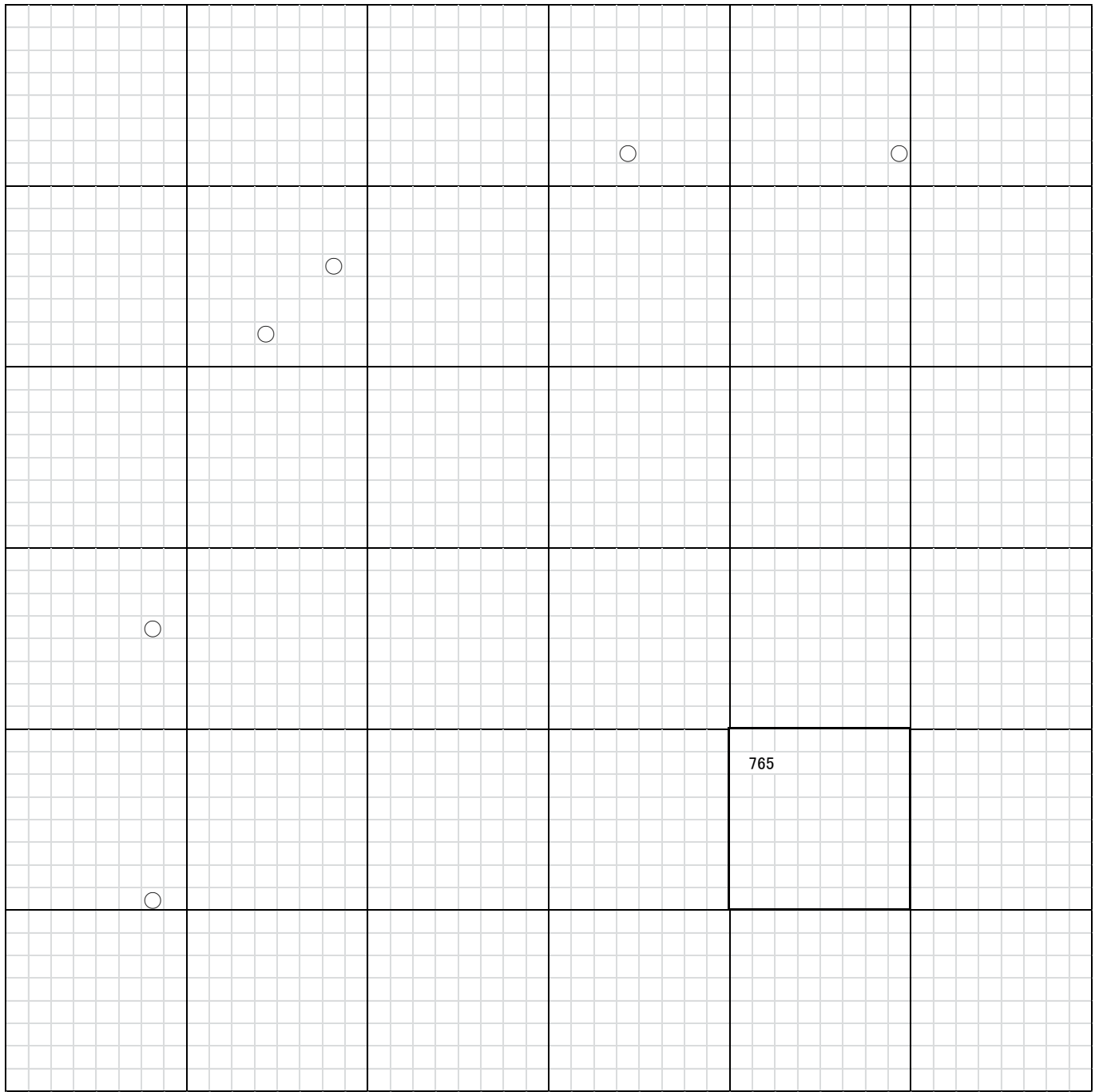
そしてもちろん第三のハードルは、どうやって詰ますのか、ということなのですが。改めまして「数学への憧れだけは無限大」、解答発表を楽しみにしています。

☆はなさかしろう氏は残念ながら無解。

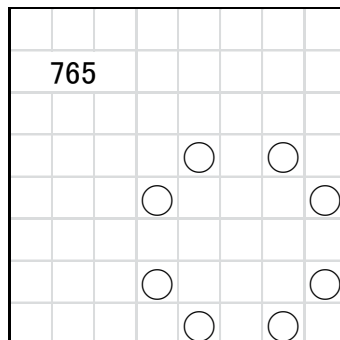
神無太郎氏が自作解説で書いているように、RSA-2048 の代わりに使う数は、8 で割って 5 余る数でないといけません。その点で、はなさかしろう氏の試した 4 つの数のうち 65、145 は失敗です。ただ、85 と 221 は大丈夫なはずなので。そこは、ちょっと分かりません。例えば $85=2^2+9^2=6^2+7^2$ なので、利きを調べると、36 に置かれた Torus- $\sqrt{85}$ -Leaper の利きは Torus- $\sqrt{5}$ -Leaper と同じになります。



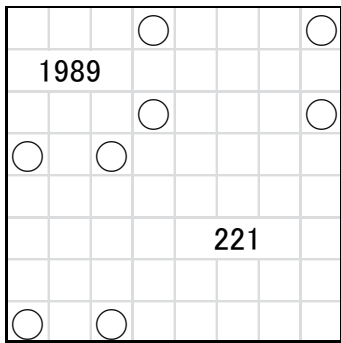
☆一方、 $85 \times 9 = 765 = 6^2 + 27^2 = 18^2 + 21^2$ なので、利きを調べると、72 に置かれた Torus- $\sqrt{765}$ -Leaper の利きは 36 に置かれた Torus- $\sqrt{5}$ -Leaper と同じになります。



(全体図は大きすぎるため省略し、一部のみ表示しています)



☆また $221=5^2+14^2=10^2+11^2$ なので、同様の方法で利きを調べると、36 に置かれた Torus- $\sqrt{221}$ -Leaper と 72 に置かれた Torus- $\sqrt{1989}$ -Leaper の利きは、36 に置かれた Torus- $\sqrt{13}$ -Leaper と同じになります。



☆園城寺怜氏やテイエムガンバ氏の分析に従えば、Torus- $\sqrt{221}$ -Leaper は Torus- $\sqrt{RSA-2048}$ -Leaper の代替にはならないようですが、先後の玉が互いに利きを消し合っているのは変わらないので、詰手順を求めること自体は可能だったと思います。

☆本局の正解者は園城寺怜氏だけでしたが、テイエムガンバ氏やはなさかしろう氏も解図に挑戦し、作者も気付かなかった方法で正解や正解に近い場所に辿り着いています。出題した時には正解が寄せられるかどうか危惧した今回の特別出題ですが、皆さんのおかげでその危惧も杞憂となりました。筆者も結果稿を楽しく書けたので、改めて本局への挑戦者の皆さんに感謝したいと思います。

【総評】

変寝夢さん

今回は一つも解けませんでした。
103-4は何とかしたかったなあ。

園城寺怜さん

今回は時間があまりなく、難解そうな2問が解ききれませんでした。
でも、前回よりも楽しく解ける問題が多く、解いていて気持ちよかったです。
次回も頑張ります！

縫田光司さん

7番が解けたので半分くらいは満足なのですが、特別出題についてはどうしても考えが浮かばず降参です。結果稿を楽しみにしております。

たくぼんさん

推理将棋は解けると思って後回しにしたら、難物で完全に手が見えずお手上げになってしまいました。失敗したなあ。

☆今回は **103-sp** という説明の難しい作品があったので、かなり早くから結果稿を書き始めたのですが、原稿の仕上がりは結局締切間際になってしまいました。他の作品の解説の手を抜いたということはないのですが、勘違いや確認の漏れている部分があるかもしれません。もし何か問題や疑問点がありましたら、遠慮なくお知らせください。
それにしても、やっぱり詰将棋というのは「時間泥棒」なんですねえ……

以上



Fairy of the Forest #56 解答発表

■ 2018年06月20日：課題発表：(協力詰)

「自由課題」

- 2018年07月15日：投稿締切
- 2018年08月15日：投稿再締切
- 2018年08月20日：出題
- 2018年09月15日：解答締切
- 2018年09月20日：結果発表

■ 結果発表

【今回の解答者】(敬称略、到着順)
(○は全題正解者)

○神無七郎、○たくぼん、○占魚亭

■ 56-01 たくぼん 協力詰 35手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
										二
										三
										四
					馬		料	銀		五
					馬	全	銀	皇		六
				馬						七
				角	齧	歩	桂			八
					飛	金	歩	王		九

持駒 飛

17飛 18角 同飛 同玉 27角 同玉
 37全 同銀成 36角 同全 47飛 37全
 同飛 18玉 19銀 同玉 17飛 18角
 同飛 同玉 36角 27飛 同角 同玉
 47飛 37角 同飛 18玉 17飛 同桂生
 36角 27飛 同角 19玉 18飛 まで 35手

(詰上り図)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
										二
										三
										四
						馬			銀	五
						馬		銀	皇	六
					馬			角	料	七
							歩	桂	飛	八
							金	歩	王	九

持駒 なし

作者一くるくる級を投稿します。
 手なりに進めれば答えに辿り着けると思いますが、気持ちよい展開だと思います。

☆密室の玉。玉の可動地点は19・18・27の3か所。まずは49飛を世に出すことを考えます。

占魚亭一飛角乱舞。序盤の成銀の翻弄がアクセント。

☆17飛、18角合は必然で、玉を27に呼んだ後、36成銀と58角を捌き、47飛と出るまでは、作者の言葉どおり手なりに進めることができます。

七郎一後から考えれば当然の手なのですが、12手目37全が少し盲点になりました。

☆奪った銀を19に捨て、17手目17飛となった形は、初形と比べ36地点が空いています。18角合で入手した角をその36に打ち、飛合から飛打で角合を入手。再度の17飛には同桂生がアクセント。再度の36角打から27飛合を入手し、18飛まで還元玉の詰上りとなります。

七郎一統一感のある手順に収束の桂不成も入り、楽しめる中編密室物になっていると思います。

☆似たような手順が繰り返され、テンポよく詰められる軽快作です。

■ 56-02 たくぼん 協力詰 45手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						香	歩	香	二
			玉						三
						桂	王		四
				入					五
				入	桂		桂		六
				歩					七
				入		桂			八
				入		歩	金		九

持駒 香

15 香 23 玉 13 香成 33 玉 23 杏 34 玉
 33 杏 35 玉 34 杏 25 玉 35 杏 26 玉
 25 杏 27 玉 18 金 37 玉 27 金 38 玉
 37 金 39 玉 38 金 29 玉 39 金 18 玉
 29 金 27 玉 *38 金 同と 26 杏 28 玉
 27 杏 29 玉 28 杏 39 玉 29 杏 48 玉
 38 杏 57 玉 48 杏 66 玉 67 歩 56 玉
 57 杏 55 玉 66 杏 まで 45 手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						香	歩	香	二
			玉						三
						桂			四
				王	入				五
			杏		入	桂	桂		六
			歩		歩				七
									八
				入					九

持駒 なし

作者一在庫も枯渇していますがとりあえず1作送ります。殻を破っての収束はイマイチでしたか。

☆成香追いかから金追いにバトンタッチし、金捨てから再度成香追いに交替し、枳を破って意外にも都で詰め上がる、というのが作意でしたが……残念ながら本作には余詰がありました。

【余詰1】(27手目より)

*26 杏 37 玉 38 金 26 玉 37 金 35 玉
 46 金 34 玉 45 金 25 玉 **26 歩 14 玉
 15 歩 13 玉 14 歩 23 玉 13 歩成 33 玉
 44 金 まで 45 手

【余詰2】

余詰1の手順中**26歩を35金とすれば、以下1と同様の手順で歩が余る。

☆成香を見捨てて金で追い上げ、途中4筋の壁の歩を入手し、その歩を15歩と打って詰みに至る、という順が成立していました。作者以外の解答者のお二人は、いずれも余詰1の解答でした。

占魚亭ー楽しい玉追いでした。

七郎ー最初は19で詰む筋で4手長の手順を読みました。壁を壊して強行突破する手順は意外ですが、解後感は今一つでした。

作者ーすいません。完成フォルダに入っていたので検討済みと思っており、再確認すべきでした。とりあえず、「攻方12香→攻方12歩」として修正図とします。申し訳ありませんでした。

修正図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						香	歩	歩	二
			玉						三
						桂	王		四
				入					五
				入	桂		桂		六
				歩					七
				入		桂			八
				入		歩	金		九

持駒 香

☆私も油断して検討を怠っていました。作者ともどもお詫びいたします。

■ 56-03 神無七郎 協力詰 47手 (非標準駒数)

持駒：なし

										一
										二
										三
										四
桂				玉		桂				五
		桂	桂	手	手	桂	桂			六
	桂					手		桂		七
		桂	桂	桂				桂		八
										九

持駒 桂19

47桂 同桂生 67桂 45玉 57桂 35玉
 27桂 26玉 38桂 同圭 18桂 27玉
 39桂 同桂成 19桂 37玉 49桂 同圭寄
 29桂 47玉 59桂 同圭 39桂 57玉
 69桂 同圭 49桂 67玉 79桂 同桂成
 59桂 77玉 89桂 87玉 99桂 96玉
 88桂 85玉 97桂 75玉 87桂 65玉
 57桂 55玉 47桂右 同圭右 67桂 まで
 47手

(詰上り図)

										一
										二
										三
										四
桂				玉						五
		桂	桂		手	桂				六
桂	桂		桂	桂	手			桂		七
	桂	桂	桂	桂		手	桂	桂		八
		手	手				桂	桂		九

持駒 なし

作者一ご覧の通り桂三味の作品です。
 3枚の成桂は「と金」でも良いのが残念ですが、
 2手目の同桂不成を入れたかったので、目をつ

ぶることにしました。

☆初形図で 56 成桂を 47 に移動させ、攻方 57 桂・67 桂を追加すれば、受方玉は詰んでいます。最終的にこの詰上り形を目指すわけですが、いきなり 67 桂では 57 桂がないので詰みません。つまり、67 桂→57 桂の順で桂を打つても玉を追うだけになるのです。詰みを実現するには、57 桂→67 桂の順を成立させなければなりません。

☆そこで、9 段目に桂を打って (59 か 79 かは後で判明) 跳ねることを考えます。桂を 9 段目に打つには、玉が 7 段目にいる必要があります。また、57 桂を打つには、玉が 45 か 65 にいる必要があります (結局、両方の時点で打つわけですが)。なお、4 段目には攻方の桂が利いているため、通ることはできません。また、8 段目に入ると、桂の玉手が不能になります。以上の条件から、玉が 5 段目～7 段目を周回していくという予想が立ちます。

占魚亭一桂馬のパズル。頭 2 手の伏線が非常に重要で、中盤の手順が素晴らしい。また、還元玉になる構成も良い。

☆35 桂は玉移動の邪魔になるのでそれを動かす必要があります。しかし、47 にいたままだと後で玉移動の邪魔になるし、47 桂による 56 成桂の移動もできなくなります。そこで、39 桂、同桂成の移動を見越して、2 手目は不成で取るわけです。受方 37 成桂や 87 桂を移動させるのも、玉の通り道を空ける意味です。

☆ところが、39 にできた成桂は、9 段目の桂打を邪魔しています。そこで、桂捨てで成桂をずらしながら追っていくという、圧巻の手順が展開されます。途中、収束に必要な 39 桂と 59 桂が設置されたことにご注目ください。

たくぼん一盤駒が使えないので暗算でと思いましたが、利きが頭の中で交錯して断念。EXCEL で図面を作って解きました。見事に玉が 1 周する楽しい一作でした。

☆桂の利きは、ただでさえ錯覚しやすいですからね。こう密集しては、見極めるだけで大変です。玉は 5 段目～7 段目～5 段目と、時計回りに 1 周します。

☆さて、都から出発した玉がようやく元に戻って来ました。最後の方で、89・99に打った桂を2段活用するのも、効率的で味が良い。都入りの直前、途中で取られた57桂(67桂も取られています)を再び設置し、55玉に47桂から67桂と跳ねて予定どおりの詰上りとなります。

☆全体を振り返ると、玉の移動場所や桂の打場所が簡明なロジックで限定されていることに感心します。桂一式という様式美に手順の美も加わり、正しく「桂三昧」の一局でした。

【総評】

七郎ー今回も作品が少ないですね。以前、上谷氏がブログで書いていましたが、協力詰は「新鮮味のある新作を得るのは他のどんなルールより難しい」(<http://fairypara.blog.fc2.com/blog-entry-118.html> より)分野なので、仕方がないと言えば仕方ありません。私も正直ネタが尽きているので、今回も「非標準駒数」で投稿しました。しばらくはこの路線か、「受先」でネタを探そうと思います。

☆厳しい状況の中、いつも力作をご投稿いただき、感謝に堪えません。

占魚亭ーすみません、今回は2作のみです(連休中に時間が取れば、03の解答を送ります)。

☆03の解答が届いて(本当は締切を1日過ぎていましたが)良かったです。

Fairy of the Forest #57 課題発表

■ 2018年09月20日：課題発表：(協力詰)

「自由課題」

- 2018年11月15日：投稿締切
- 2018年11月20日：出題
- 2018年12月15日：解答締切
- 2018年12月20日：結果発表

■ 課題発表

なかなかスケジュールのずれが解消しませんが、まあ仕方ないですかね。七郎氏の総評にもありますが、「受先」や「非標準駒数」でも構いませんので、ご投稿をお待ちしております。

(投稿先)
→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

読者サロン

Pontamonさんより103回WFP作品展解答発表にコメントを頂きました。

103-1 はなさかさんのコメントへの回答

86角の代わりに、77角とすれば最終手は66角左生、95角とすれば84角左生で詰ますことができます。「まずそう」と「いける」が1条件の手順になるかどうかという意味であれば、84角左生の方は75角左生と同様に1条件だと思います。66角左生のほうは別手順があります。▲76歩△34歩▲66角△同角▲56歩△57角打▲55歩△99角不成▲68飛、△56香、▲58玉、△66角左不成など。

103-2

> 一乗谷酔象氏から条件3)の改良案が提示されました。作者の見解はいかがでしょう？

3回連続はNGという補足説明を書いておきながら、「3回連続不成はなかった」は全く思い付いていませんでした。手順前後を回避する条件を考えていたとき、「3連続不成があった」は使えないのはすぐに分かったので「3連続不成」の言葉は使えないと思い込んでいました。否定で使えばいいのですね。

10周年記念！安南詰最長手数作品！解答

7月号で解答を募りました「安南詰最長手数作品」でしたが結局解答者0。(私は答えを見ずに解きましたので解答者1名ともいえますが)残念です。

長手数記録達成(記録99手)達成おめでとうございます。

神無七郎作

安南詰 99手 ※利き二歩有効

			皇						一
		と	皇		科				二
			皇	歩	王	歩			三
	入		入	皇	王	科		歩	四
	歩	入					王		五
	桂		歩	歩					六
			銀		歩		歩		七
	入		入						八
		桂							九

持駒 角香歩3

【作者コメント】

本局は詰将棋パラダイス1985年10月号に発表した作品の修正図です。手順を完全限定にするため構図を大幅に変更しています。また、余詰として指摘された手順も収束に取り入れました。

なお、当時の安南は「利き二歩有効」が標準のルール設定であり、この修正図もそのルール設定で作っています。

【安南】

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる

【利き二歩有効】

玉(または王)を取ったとき、二歩になる手を有効とするか否かのケースがあり、本作はこれを有効とします。

46香 45角 35角 同と 45香 同玉
 57角 44玉 45歩打 43玉 44歩 55玉
 66角 45玉 57角 44玉 45歩打 43玉
 44歩 55玉 68角 45玉 57角 44玉
 45歩打 43玉 44歩 55玉 66歩 同と直
 同角 45玉 57角 44玉 45歩打 43玉
 44歩 55玉 66歩 同香 同角 45玉

57角 44玉 46香 45香 同香 55玉
 66香 同香 同角 45玉 57角 44玉
 46香 45香 同香 55玉 66香 同香
 同角 45玉 57角 44玉 46香 45香
 同香 55玉 66香 同と 同角 45玉
 57角 44玉 45歩打 43玉 44歩 55玉
 84角 45玉 57角 44玉 45歩打 43玉
 44歩 55玉 93角成 45玉 57馬 44玉
 45歩 同玉 56銀 44玉 35馬 同桂
 45歩 43玉 44歩 まで 99手

〔主な変化〕

- ・30手目同と直のところ同と右は6筋の駒を剥がさず収束に入って早詰
- ・40手目同香のところ同とは、同角 45玉 57角 44玉 45歩打 43玉 44歩 55玉 84角 45玉 57角 44玉 45歩打 43玉 44歩 55玉 93角成 65玉 (45玉は作意の収束と同様) 66馬 64玉 75馬 まで。
- このときに67銀に紐が付いていないと67玉で不詰。79桂はこの変化に備えた配置。
- ・80手目45玉のところ65玉は、66歩 64玉 73角成まで。72とはこの変化に備えた配置。
- ・88手目45玉のところ65玉は、83馬 75玉 74馬 86玉 75馬まで。
- この変化のため87手目93角は「成」限定となる。

〔主な紛れ〕

- ・初手46香のところ35角は、同桂 46香 45銀 (または飛) 以下不詰。
- 従って初手と3手目の手順前後は不可。
- ・3手目35角のところ同香は、同玉 57角 55玉 (逆王手) 35角 65玉 57角打 同歩成 同角 55玉 (逆王手) 以下不詰。
- 35角は逆王手を防ぐための捨駒。
- ・13手目66角のところ68角は、65玉 57角 同歩成 以下不詰。
- このため68とより先に66歩の消去が必要。
- ・21手目68角のところ66歩は、67と以下不詰。このため64とより先に68との消去が必要。
- ・49手目66香のところ35角は、45玉 57角 44玉 46香 55玉 (逆王手) で不詰。
- 上記手順で46香の代わりに、45香 55玉 13角成は45玉で不詰。
- 14歩はこの紛れで13馬を動けなくするための配置。
- ・69手目66香のところ75角は、同玉 66香 86玉 78歩 79とで不詰。
- 88とはこの紛れで桂を抜くための配置。

★主な紛れにも書いてありますが、初形からいきなり分岐点が訪れます。作意は、46 香、45 角、35 角と入ります。初手 35 角もありそうですが、同とではなく同桂と取られ続く 46 香に 45 銀(飛)合で詰みません。手順前後は利かず初手 46 香が正解です。

2手目の角合の所銀合は、同香、同玉、57 銀、44 玉、45 歩、同玉、56 銀、44 玉、55 歩打、同と、45 歩打、同と、同銀、同玉、56 歩打、44 玉、45 歩打、43 玉、32 角まで詰みます。しかし3手目でまた同香とする紛れがあります。それには同玉 57 角 55 玉(逆王手) 35 角 65 玉 57 角打 同歩成 同角 55 玉(逆王手)以下不詰

不詰図

				皇						
			と	皇		科				
			皇	歩	歩	歩				
	ス		ス	歩		科			歩	
	歩	ス		王					玉	
	桂			歩						
				銀	角	歩			歩	
	ス		ス							
			桂							

持駒 歩4

54 飛配置が絶妙で逆王手で逃れるわけです。というわけで3手目 35 角、同とという順を入れることで逆王手の逃れ順を消しておくわけです。

この山を越えると、原作と同様の順に入りますが、13 手目にまたまた分岐点がきます。

13手目の図

				皇						
			と	皇		科				
			皇	歩	歩	歩				
	ス		ス	歩		科			歩	
	歩	ス		王					玉	
	桂		歩							
				銀	角	歩			歩	
	ス		ス							
			桂							

持駒 歩2

ここで 66 角と取るのか、68 角か……。とりあえず 68 角と目障りのと金を取ってみます。以下 65 玉 57 角 同歩成以下不詰。

				皇						
			と	皇		科				
			皇	歩	歩	歩				
	ス		ス	歩		科			歩	
	歩	ス		王					玉	
	桂			歩						
				銀	角	歩			歩	
	ス		ス							
			桂							

持駒 歩3

66 歩を残しておく、後手玉が 65 に来た時に 66 歩が玉の働きになり 57 角を取られてしまいました。というわけで先に 66 歩を取る順が正解です。

次の分岐点は 21 手目に訪れます。

21手目の図

				皇						
			と	皇		科				
			皇	歩	歩	歩				
	ス		ス	歩		科			歩	
	歩	ス		王					玉	
	桂			歩						
				銀	角	歩			歩	
	ス		ス							
			桂							

持駒 歩2

ここでは、66 歩としてと金を剥がしていく順と 68 角とと金を取る順があります。68 とは消しておかないといけない駒かどうか……。では 66 歩としてみましょう。以下 66 歩、67 と！で不詰。すぐに 66 歩では 67 とと根元の銀を取られてしまいます。ここは 68 角が正解です。

次の分岐点は 30 手目。66 歩に対してどちらのと金で取るか……。これは作意が角を 93 に成る手順となりますので 6 筋の駒消去が優先し 75 とで取るのは最後の手段になります。40 手目同香の所同との変化や 49 手目 35 角、69 手目 75 角の紛れの順は「前述の主な変化・紛れ」を確認していただくとして、その順に必要な 79 桂、88 と、14 歩の配置には感心

しました。87 手目の 93 角成りも 66 手目 65 玉の変化のためにの成限定となっており全手順完全限定の作品となっています。(すごい)

6 筋の香とと金、75 と 84 のと金を消去し終わればよいよ収束です。角を馬にしてその馬を3手目に角を捨てて呼んで来たのと金と振り替えてフィニッシュです。

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
		と			香				二
				香	玉	香			三
				香	歩			歩	四
	香					香	玉		五
	桂			銀					六
					香		歩		七
	入								八
		桂							九

持駒 なし

馬を切つての順からの詰上図も美しいですね。

原作との比較をしてみると、消去の手順はそのまま活かしながら、原作では 7 段目での消去でしたので成生非限定がありましたが、本作は 6 段めでの消去ですので非限定も消えています。それに加えて4手目までの手順の綾や、駒を消す順番の考え所も加えて収束の切れ味も増して原図からかなりグレードアップしています。

作者からは「ただ、これは新作ではなく修正図です。本来は参考図扱いが妥当なのですが、原図からかなり改変しているので、もし投稿が少なければ出題も可能だと思います。」とコメントを頂いておりましたが、私も充分出題に関して問題ないと思っております。

しかしながら2ヶ月に解答期間を延ばしたのに解答者0は残念でなりません。担当者の告知に問題があったのか、安南詰そのものに関心が薄かったのか、作者には申し訳ない結果となりました。

皆様是非本作を、盤に並べてみて安南詰の面白さを体感して頂きたいと思います。今回99手と最長手数の新記録となりましたが、まだまだ埋もれている長手数への手順はあります。是非100手超えを新記録を狙ってのチャレンジをお願いします。

【参考】

橋本孝治／詰パラ／1985年10月／早詰
安南詰 77手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						皇			一
						皇		香	二
						皇		香	三
						皇	香		四
						香	香	玉	五
						香	入		六
						香	入	歩	七
						香	銀	角	八
				皇					九

持駒 歩4

16 歩 14 玉 15 歩 26 玉 37 角 16 玉
28 角 15 玉 16 歩 14 玉 15 歩 26 玉
37 歩 同と 同角 16 玉 28 角 15 玉
16 歩 14 玉 15 歩 26 玉 37 歩 同歩
同角 16 玉 28 角 15 玉 16 歩 14 玉
15 歩 26 玉 37 歩 同香成 同角 16 玉
28 角 26 玉 37 香 同香成 同角 16 玉
28 角 15 玉 17 香 16 香 同香 26 玉
37 香 同香成 同角 16 玉 28 角 15 玉
17 香 16 香 同香 26 玉 37 香 同香成
同角 16 玉 28 角 15 玉 17 香 16 香
同香 26 玉 37 香 同桂成 同角 16 玉
28 桂 17 玉 29 銀 16 玉 18 銀 迄 77 手

【早詰順】

16 歩打 14 玉 15 歩 26 玉 37 角 16 玉
28 角 15 玉 16 歩打 14 玉 15 歩 26 玉
46 角 16 玉 28 角 15 玉 16 歩打 14 玉
15 歩 26 玉 73 角成 16 玉 28 馬 15 玉
16 歩 14 玉 15 歩 迄 27 手歩 2 余り

この余詰順を見事に作意に昇華させていますね。さすが七郎さん！

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2018年10月15日(月)

- 第104回 WFP 作品展
フェアリー作品 9題
推理将棋 2題

2018年11月15日(木)

- 第105回 WFP 作品展
フェアリー作品 7題
推理将棋 2題

作品募集締切一覧

第49回神無一族の氾濫

お題: 「理論上の上限・下限」
1題は通常のほか(協力)詰
募集締切: 2018年10月14日(日)
募集作品数: 4+1(ほか詰枠)
送り先:
神無七郎(k7ro.ts@gmail.com)
1人何作でも可。採否は10月21日までに通知します。

(詳細は本号 P13 をご覧下さい)

Fairy of the Forest #57

協力詰 (自由課題)
「受先」や「非標準駒数」可
投稿締切: 2018年11月15日(木)
投稿先: 酒井博久(sakai8kyuu@hotmail.com)

(詳細は本号 P49 をご覧下さい)

あとがき

集積回廊シリーズで有名な小野小町氏の作品を見直しています。初出は1989年6月なのですが、(2006年からはペンネームを伊藤妖看、伊藤萬寿、天野投歩などに変えられています) リストを見ると初期のほとんどの作品は不完全作のオンパレード。短手数のを除いてはほぼ早詰です。そしてその早詰の為、作意不明のものが数多くあるのです。

フェアリーデータベースには「作意不明」となっていますので不完全作ではありますが何とか作意を推測できないだろうかと考えております。

まだ準備段階ですので全部を載せられませんが、とりあえず1作ですが図を載せておきますので興味がある方のご協力よろしくお願ひします。もしかしたら私の知らない所で既に判明している作品もあるかもしれません。その当たりの情報をお持ちの方がいらっしゃいましたら連絡下さい。

1990年1月 詰パラ 小野小町「集積回路 IV」

ほか自殺詰 2544手 早詰

9 8 7 6 5 4 3 2 1
Table with 9 columns and 9 rows showing a Go board position with pieces like 銀, 歩, 金, 香, 桂, 王, 玉, 香, 金, 銀, 歩, 桂, 角, 銀, 銀.

持駒 飛歩16

2018年 第123号
Web Fairy Paradise
非売品
平成三十年九月号
平成三十年九月廿日発行
発行所 愛媛県新居浜市
発行兼編集人 須川卓二
発行所 Web Fairy Paradise 編集部
問合先 takuji@dokidoki.ne.jp
須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp